



癒しの靈感術

坂下進一

はじめに

初めて来た所なのにどうも以前来た様な気がする。この様な同じ光景は以前にもあつた様な気がする。また、夢で見た事やふと考えていた事が、現実の世界と一致した事がある。

だれしもこの様な経験は少なからず記憶にあると思います。これは本来人間の持つてゐる能力の一部で、過去世や守護霊、高次との繋がりが大きなかかわりを持ち、ひと時でも人間であるという事を感じさせてくれるものでもあり、科学が発達し、人類が進化すればする程だんだんと衰えて行くものなのでしょう。

本来人間として生きていかなばならないのに中途半端な霊感があるために、苦しむ人がいるのも事実です。ある人は病気で悩み、ある人は恋愛で、仕事で、人間関係で、お金で・・・と。立派な守護霊に恵まれ守られてゐるはずなのに、なぜこの様に苦しまなくてはならないのか。世の中には立派な守護霊にも恵まれ、しかし霊能力者とまではいかなくて中途半端なところで苦しんでいる人も多いのです。

今振り返ってみるとまさにこの様な事は私自身の少年期そのものだった気がします。

私は、家の庭に小さな社を持っています。この社は豊受大神宮というもので守護神は宇迦之御魂大神という女神です。

この女神は今まで私に数え切れない程の不思議な体験や経験をさせてくれました。詳しくは、たま出版へノンフィクション大賞として応募した作品より、出版された著書(前著)「神様がくれた神通力」の本を読ん

で頂ければ幸いかと思われませう。

先日テレビや新聞で放映された様に平成六年六月一日に、この社に三千年に一度しか咲かないと言う非常に珍しい幸福をもたらす「うどんげの花」が咲きました。女神はこの社に健康、商売繁盛、縁結び、交通安全、家内安全、学業、知恵、幸福など三十二種の神の力が宿ったという意思表示をしたとの事です。

最近では我が家の家族も紛失物を捜すために、この社の女神様をうまく利用しています。その失せ物の発見率は今のところ高確率です。不思議だと言ひ、発見される度に驚いています。六月一日の早朝目覚めと同時にこの女神は私に語りかけて来ました。「世のため、人のため、困っている人のために働きなさい」と言うのです。

そして、その年の十一月十三日に私自身の身体に宇迦之御魂大神という神様が守護神として降臨し宿り、神霊主、「福寿帰命」の名前を直接いただいたのです。

今ではこの社そして、私の元に困った事で相談にくる方も多くなりました。

ある時は瀕死の病人が生死をさまよっているため救おうとすると手から鋭いパワーが出現し、患部を癒し治してしまったり、又ある時は紛失物を捜すために透視をするトリアルに落ちている場所が映像の如く見えたり、すでに一週間も前から悩める人がやって来るのを予知したり、植物や石が語りかけて来たり、気功の勉強に行くとその人の持つ気やオーラが見え、匂いや味や音までが分かってしまうのです。自分でもびっくりしてしまう程です。

日頃通り過ぎる人の人間性はもろろんの事、過去性、未来性まで分かってしまう事もあるのです。変わった事で言うところとギャンブルの当り目を教えてくれたり、仕事のない人に仕事を授けたり、様々な経験を見せてくれるのです。しかし私には体力的に無理もあるため最近では興味半分でエネルギーを使うのは控える様になつて来ました。

私の守護神は私に、神道、仏教、宗教などの勉強をあらゆる手段で教えて来たのです。

ある時は宇宙エネルギーとマッチングのとれる自分自身に合った石を知り、人間がその石を常に持つ事により不運や病から逃れられると言う事も教えてもらい、水や薬草にあつては人間の体に最も良いものを作り出し飲む事により、現代病や難病から逃れ老いてはボケ防止にもと思ひ女神から勉強中であり、出来れば悩んでいる人に飲ませてあげたいと考えております。

心に曇りがあつたり、ひやかしゃ、無信では願ひ事も不可能な様ですが、信じる事の出来る人にはこの神は力を貸してくれると言います。もちろん私も信じています。

私は困つた事が起きた時にはいつもこの女神「宇迦之御魂大神」にお願いしています。

この宇迦之御魂大神という女神が降臨するまでは、私の身体は毎日が霊障害の連続でした。今ではその女神も運命をも変えてくれると信じています。

一方、マスコミ等でも今まで各地で勃発している紛争や戦争、また全世界に及ぼす不況や温暖化、自然災害に関しても大きく取り沙汰されています。我々人間の足となる航空鉄道事故、冬場は豪雪による被害、地

震や津波、放射能等による大きな問題、転変地変。

そして過去には人間はもちろん、動物、機械などが関係する事件事故に関する様々な事が沢山ありました。今後この様な事件を引きずりながら今度は人間同士のマインド的な問題も増えて来るのではないかと予測できるのです。

携帯電話が普及している昨今、目には見えない高周波の電磁波で我々の身体が凄まじい速さで蝕まれているかもしれません。

また、人間が絡む不思議な事件、新しい病原菌による新種の病気、精神面や摩訶不思議を考えさせられる様な事件事故、我々人間界のすぐそばにあつて目に見えない宇宙の始まりや構成する物質が解明される日も近いのではないかと思います。

そして、私が今までに体験して来た不思議な霊的な出来事を何とか科学で説明しようと今努力をしているのですが、どうしても科学では説明できない本当に摩訶不思議なものもあるのです。

神様がくれた神通力シリーズ、今回はこの様な霊的な不可解な出来事、霊障害で悩める人々、人間に関して心の中から考えていかねばならない次世代にふさわしく「癒しの霊感術」と題して私が過去に生きてきた半生、神様からもらった癒しの霊感術を通し、一人でも多くの人が苦しみから逃れられ、明るい未来へと進んで行かれる事を祈願し発行するものです。

著者

癒しの靈感術―目次

はじめに

第一章 霊能開花と守護神

一 苦悩の少年期

二 守護神、宇迦之御魂大神

第二章 不可思議な体験

一 霊的遭遇事件

二 超能力の実際

三 相談者から学ぶもの

四 超能力の不可思議

五 共時性(シンクロニシティ)

六 彼岸に先祖の嘆きが聞こえる

七 人が死んでしまった

第三章 神通力伝授

- 一. 神通力習得の伝授
- 二. 予知の訓練方法

第四章 霊障害

- 一. 霊障害対策

おわりに

第一章 靈能開花と守護神

一・苦悩の少年期

私は群馬県の太田市という田舎に生まれ、小学二年生位までは天真爛漫に楽しく過ごしてきた記憶は今ではつきり残っています。通学路には米や麦の田畑、春になると小川には溢れんばかりの沢山の水が流れ、そして地元は養蚕が盛んだった事もあり、蚕の餌さとなる桑畑も沢山あったものです。また秋には稲の刈り入れが各地でいつせいに始まり、藁を燃やした煙や匂いなどが身にしみたものです。そんな田舎道を通学路として毎日行き来していたのです。

しかし現在では小学生達をターゲットにした事件も多く、ここ太田市でも通学時にはマイクロバスが迎えに来るといふ時代となつてしまいました。我が家の付近ではすでに、北関東高速道路が開通し、ホタルが飛び回っていた頃からすると、日夜自動車の音があふれんばかりです。

あちこちで色々な開発が進んでいるとはいえ、幸いにもまだ少しの自然が残っており、子供の頃の事を思い出させる事も少々ではありますが遭遇します。車が行き来し、高速で車が動いているにもかかわらず家の周りでは今でも何番いかのキジの姿を見る事も出来ます。

相談者が見えた時にこのキジがあぜ道から通るのを見た時などはびつくりする様です。

田植えの時期になると何処からともなくカエルの鳴き声が聞こえて来たり、そんな時こそこれも童心に帰りほっとする瞬間なのです。

あの頃から科学的なものに興味のあつた事は今でも変わりません。今だから携帯電話やパソコンの時代であり、私が子供の頃に数時間かかったものも瞬時に処理してしまうという時代になって来たのです。あの頃は「将来人間は手のひらに乗せた小さな機械で遠いところの人と話しが自由に出来る時代が来るのだよ」と、言っていた記憶があります。

今でもその人達に「そういえばそんな事を言っていたね。」と携帯電話を手に行っている知人に言われる事がよくあります。まさか自分でもその時代が今日こうして本当に来るとは思ってもいませんでした。

全てが小型化され、ハイグレードとなり信じられない時代の進歩です。フロッピーでは物足りずCD、DVD、RAM、ブルーレイと・・・音楽や映像の世界では小型化、大容量化へとテレビにあつてはアナログからデジタルへとめざましい発展があります。しかし人間のマインド的ところは昔から比べてもそんな変化にとんだものとはとても考えられないのです。

そういう人間も将来体内にICやチップを埋め込まれ、番号で住民基本台帳に基づき個人情報管理される時代が来るとなると、いったいどの様な未来が展開されるのかと驚いてしまうほどです。

時代は小学生に戻りますが、あの頃の私の頭の中で楽しく想像される事は電子部品の組み立て回路を眺めたり、電子部品を使って電子機器の組み立てが楽しく感じられたものです。中でも鉱石ラジオの組み立てと

なると、ゲルマニウムという石を使ってラジオを作り学校へ持って行ったものでした。休み時間になり、そのラジオのアンテナを教室の窓から雨トイに引つ掛けて、イヤホンで聞いたものです。聞こえてくるのはNHK第一、子供ながらに内容はまったく分からなかったのです。ただラジオが鳴り、音が出ているという事に喜んで聞いていたものでした。同級生達は順番を決めてそのラジオを聴くためにイヤホンの取り合いに、教室の友達たちと喜んでいましたものでした。

私が霊障害と闘い始めたのはその後からです。厳格で気の短い父親に何度も叱られ、事を同じくして霊障害も平行にやって来たのです。私の今日があるのが不思議なくらいです。

当時の事を二〜三振り返ると、まず厳しい親父の体罰に耐えるのも大変な思いでした。今ならDVなどと騒がれ、大きな問題となる事でしょう。

私が親父の言う事を聞かないために、その鉋石ラジオを壊されてしまった事はもちろんの事、忘れもしないステレオ事件があります。

それは私が中学生の頃の出来事でした。当時の私はステレオに興味があり、アンプを自作して音楽を楽しんだものでした。今だとICやLSI等のチップを使うため、個人での自作にはちょっと無理がありますが、当時はトランジスタさえも市場にあまり出てなく、真空管によるステレオアンプの製作だったのです。初歩のラジオ、ラジオの製作、ラジオ技術、無線と実験などの本を頼りに製作する毎日でした。

こつこつとアルバイトをし、製作費用五万五千円を貯めたのです。このお金をアンプの部品代に当て、当時としては五万五千円かけて出力三十五ワットというと凄い立派なものだったのです。毎日毎日少しずつ半田ゴテやニッパーを持って製作に取り組んでいました。そしてやっと完成の日がやって来たのです。

忘れもしません。完成したのが夜の十一時頃だったのです。全ての回路を何回も何回もチェックにチェックを重ねておそろおそろスイッチを入れてみたのです。トランスから出るかすかなブーンと言うハム音、すると各真空管の頭が赤くなってくるのが見えるのです。スピーカーからはまだ何も聞こえません。これからが問題です。ポリウムをつまみをゆっくり右に回すと、スピーカーから音が出ているのです。実際にはノイズとして捉えるリップルという直流しきれない音が出ているのです。ノイズだけでも良かったのです。実際にアンプが完成し音が出る状態になっていたのです。

さっそくプレーヤーをセットし、レコードをかけてみたのです。するとちやんと右から左から音が出ているのです。完成です。すると隣の部屋で寝ようとしている親父が気になるせいかこちらにやって来たのです。「今夜はもう遅いから明日にしない」というと隣の部屋に行ってしまうました。しかしここままで作った三十五ワットのアンプ、もう少しポリウムを上げてテストしたいのです。まさか真夜中にするわけにはいかないし、まだ十一時ちよつと過ぎたところなのでそこちよつとだけなら良いかと思ひ。ポリウムをガンと上げたのです。素晴らしく良い音を出してガンガンなっています。と同時に親父がダダーと玄関を出て表に出て行ってしまったのです。

次の瞬間親父がマキ割りを持って戻って来たのです。するとあつという間に作ったばかりのアンブをメツタ打ちされてしまったのです。アンブのシャーシーはひん曲がり。真空管は割れてショートし、火花もろとも一瞬に飛び散り、部品はくさい臭いで燃えてきて大変でした。この様な事は厳しく育てられて来たために何度か経験しているのですが、当時からかかった費用五万五千円が非常にもつたたく感じられました。来る日も来る日もアルバイトを重ねやつの思いで貯めたお金で作ったのでとても残念でした。でもあの時は私の責任でアンブのポリウムを上げてしまった為に、起こった事件だったので我慢するしかなかったのです。

そんな時に私の気持ちを和らいでくれたものがあつたのです。前著「神様がくれた神通力」で紹介した我が家の隅にある稲荷の社(祠)です。藁で作られていて中に一枚の神札(おふだ)が入っているだけのものなのですが、私はこの場所へ来ると何となく気持ちが落ち着き、安心するのです。

親父に叱られた時、兄弟げんかした時、学校で嫌な事があつた時、この社は私に何も語りかけてはくれませんでした。私の気持ちを大きく包み込んでくれる大きなパワーを感じさせる何かを持っていたのです。あれから何時間藁の社の前で手を合わせて泣いていた事でしょう。涙が乾き目の前がこわばっているそんな頃、母親がいつも「父ちゃんに誤りなさい」と言い、迎えに来たものでした。

貧乏な家庭に育ち親父が苦勞しているのにもかかわらず、長男が呑気にアンブ等を作っている姿を見て、さすがに一本気な性格の親父には腹立たしく思ったに違いありません。小柄ながらも人頭の乳牛を飼い、連日乳搾りに精を出している親父は頼もしく感じられたものです。でも一歩我々が間違つた方向へ向いてし

まうと軌道修正のため、大きな握り拳が何度も頭の上に降って来たものでした。牛乳を搾っている最中に兄弟げんか等をしていると我々の大きな声に、牛がびっくりして暴れて搾っている牛乳をこぼしてしまうのはしょっちゅうの事です。今なら搾乳機を使い問題はないのですが、あの頃は親父が手で搾っていたのです。我々が大きな声を出したために次の朝、牛乳の出荷が出来なかつたという事が何度もありました。

そんな乳牛の餌を取りに行くのは長男である私の役目です。学校から帰ってくる毎日日牛に食べさせる草を刈りに行かなければならないのです。また早朝には牛の糞も片付けてから学校に行かなければなりません。家の周りの近くではもう草もなくなり、少し遠くまで草刈りに出なくてはなりません。のんびりしていると日が暮れてしまうし、家業の手伝いも大変なものでした。ある時はよその畑の桑を刈って来てひどく親父に叱られた事もあります。またある時は牛の糞を片付けずに学校へ行こうとしたら、親父が怒り、その牛の糞の中へ私を投げ飛ばし、ウンコまみれになった事もありました。あまりの臭さに学校へ行くのをためらつた程です。

親父の短気は半端なものではありませんでした。何せ人間にはもちろんの事、牛でさえも言う事を聞かないと大変な目にあつてしまいます。畑に大きな穴を掘つて、生きている牛を埋めてしまうという事件もありました。

ある日の事毎日の草刈りも嫌になり、あたかも沢山の草を刈って来たか様に見せかけ、重そうにカゴを担いで、牛に食べさせた事がありました。しかしお腹のすいた牛は、遠慮なく夜中にモーモーと泣き出すの

です。すると親父が寝ている私を叩き起こし、「餌が足りない」と言い、再度夜中に草刈りを命じるのです。そんな時に限って草の生えている場所は薄暗いお寺の近所で、それも墓場の近くでないと草を刈る事ができないのです。

恐くて恐くて目を瞑って草刈りをしたものでした。鎌で手を切ってしまったり、刈り終えた草をリヤカーで運んで帰る途中、急いだためにそっくり草を落としてしまったりと、散々な目に遭いました。しかし家庭内では私のする事はこれが当たり前なのでした。

今でもどこかで牛がモーモーと泣く泣き声がすると、当時の辛かった時の事を思い出してトラウマとなっている胸がキューッと引き締まり重く感じられるのです。

そんな辛い日々が毎日の様に続いていく中で少しずつ体調不良が出てきました。体調不良に関しては前著でお話したとおり毎日が様々な病気との闘いでした。毎日不調なので不調が当たり前となり、調子の良い時があるとむしろおかしいのではないかと自分の体を疑う日も出てきたほどでした。あれだけ短気で厳しい親父でしたが、私が体調不良を訴えると、その都度ちゃんと医者へ連れて行きそれなりの事はやってくれる人でした。

しかし一ヶ月を通して調子の良い日はほんの二三日だけであり、来る日も来る日も毎日が病気との闘いだったのです。どんな医者へ行っても良くならず、何とかお願いしてすっきりするところは唯一、例の我が家の隅に祭られている稲荷の社で手を合わせる事だけだったのです。

二守護神、宇迦之御魂大神(ウガノミタマノオオカミ)

貧乏な家庭に生まれ、小さい頃から病弱で苦悩な毎日を過ごしてきた訳ですが、そんな中で一つだけ心が安らぐ事がありました。前項で出てきた稲荷の祠です。

家の敷地内の北の隅にあり、竹で組んで雨よけに、藁が乗せてある小さな社として作ってあったもので、中には一枚の神札(おふだ)が入っている稲荷の社です。そこへ行くとどんな辛い事があってもどんな哀しい事があっても心安らぐ一瞬が得られたのです。

昔から農家では五穀の食物、稲をはじめとし、麦、あわ、きび、豆など豊作を祈願し、そしてお店を営んでいる人など、商売繁盛を祈願し、稲荷の神を祭っているのです。

日本でももつとも分社の多い神社といわれていますが、そのご利益にあやかり、信仰する人達も多くなつて来たと言います。

その後に私が極度な霊媒体質、霊感体質であるという事がわかり、ある日の事私の夢枕にこの稲荷の神が表れ、人様の目に付く表に出たいというのです。もともと家神様として稲荷を祭る場合、自分の家の戌亥の方向、すなわち、今でいう北北西の位置に鎮座するのが正しいとされ、各家庭でもその様にして祭られているのです。

不思議な夢を見ている最中、神様の現れてくる夢など特に慎重にしなければなりません。また神様は表に祭って頂ければ世の為、人の為にそして私の為にも努力するということです。相手が神様だけにさっぱりわか

りません。当時、親に相談しても信仰心はあるものの宗教的であるとの事であり良い顔をしませんでした。私の家庭は一般的な信仰心はあり、神仏に関するもてなしは必ず行なう家庭でした。しかし個々の宗教となると家族全員が反対の意見を述べ、もちろん私も宗教に片寄るのは好きではなかったのです。

その頃近所に方縁様と呼ばれる人がいて、その人にこの事を話し相談を持ちかけたのです。方縁様というくらいだから方は「方位方角」の方で、縁は「縁談」の縁だと字を見ると解釈できるのですが、当時は拝みやさん等とも言っていた様です。今で言う風水や易や占いをする人と理解すると良いのかもしれない。

方縁様は「それは良い事なのでぜひ祭って上げなさい。」と言うのです。当時の私はその神様を祭る儀式はもちろん。どんな事をするのか全くわかりませんでした。

方縁様に言われるがままに準備をしたのです。宮大工と言われる人のところから当時私が社会人として勤務したばかりの初任給ほどの、立派な稲荷の社を買って来たのです。

そしてその社を置く台と、真つ赤な鳥居も求めたのです。社は今度は元あった場所ではなく、家の表(辰巳の方向)へと移し、神札も入れ替えたのです。方縁様は社に向かい手を合わせ、一生懸命に祝詞を上げお祝いして頂いたのです。

その後来る日も来る日も社は丁寧扱われ、お祭りされ、我が家を守ってくれる立派な神社として働き始めたのです。

十五年前の早朝大きな音と共に、私の身に守護神として降臨してきたのが宇迦之御魂大神だったので。詳細については前著、「神様がくれた神通力」に記述してありますので参考にして下さい。この女神は私に今までに数え切れないほどの沢山の不思議な体験をさせてくれました。思えば苦悩の幼い時、まだ社も新しくする前に、苦しきのあまり、あの藁で出来ている社を訪れ、手を合わせお祈りしていた事が何度もありました。家の手伝いはしなくても神様の社の掃除や、新しい藁を取り替える時、初午や春秋のお祭り、毎月一日と十五日には必ず色々な事をやってあげました。きっと神様はこの頃から私の元へ降りて頂く決心をされたのだと思います。何の作法も知らずにあの頃はただただ神様に手を合わせるだけだったので。

神様が降臨してきた当時はこの社に鎮座する稲荷の神かと思っていたのですが、なぜか豊受大神(トヨウケノオオカミ)と名乗り、豊受大神宮とも言ってきたのです。稲荷の神を信じて正しく信仰していたのにシヨックも大きく、いったいどの様な神様なのかと疑ってみたのですが、後日調べてみると全ては名前が違うだけで実は同じ神様だったのです。

神様は一人でいくつもの名前を持っていて、漢字に書いても、宇賀之御霊大神や倉稲魂神と表現したり、豊受大神以外に豊宇気毘売神(トヨウケヒメノカミ)、大宜都比売神(オオゲツヒメノカミ)、保食神(ウケモチノカミ)などと沢山の名前があります。名前の中に宇気と言う字が使われているのも、食物を意味するところから由来していると言います。京都の伏見稲荷大社や伊勢神宮の外宮の神様と同じ神様なのです。

私は自分に降臨してきた神様が、いったいどの様な神様なのか色々と言物等で調べてみる事になったのです。すると神様たち高天原の世界では、みな親戚関係に当たるのです。

宇迦之御魂大神のお父さんはあの須佐之男命(スサノオノミコト)であり、お母さんは神大市比売命(カミオオイチヒメノミコト)、お兄さんは大年神(オオトシガミ)だったのです。家系をたどると天神族を代表する天照大神(アマテラスオオミカミ)や、出雲神話で有名な地祇族を代表する大国主命(オオクニヌシノミコト)も登場するのです。あくまでも神話の世界の話なのですが、どの神様もおの自分の仕事を持ち、それなりにふさわしく神話が構成されていたのです。

結局、宇迦之御魂大神(稲荷の神)が社に祭られたのですが、今度は神札ではなく、御神体を祭りたいと言います。ここでまた藁の社から立派な社に変わった様に、中に入るものも神札ではなく御神体、すなわち神御霊(おみたま)が入る事となったのです。また一つ格が上がっていく事となり、祈願の末に伏見稲荷大社の親神様から御神体を分けて頂く、御分霊(わけみたま)という形で鎮座する事になったのです。一般にはこの事を稲荷勧請といい、

この神御霊は神札と違って御神体ですので、最も丁寧にお祭りしなければなりません。

ある日のこと、その稲荷の社に火の玉が飛んで来て飛び込んだのです。火の玉は長い尾を付けて人だまの様にゆつくりと飛んで来て、社の中へスーツと入って行ったのです。

あの様に火の玉が社に入る現象を見たのは初めてでした。その時目に見えない力が社に宿ったと確信したのです。その社に今度は三千年一度しか咲かないと言われる、優曇華(うどんげ)の花が咲いたのです。当時は地元の新聞社やテレビ局まで取材に来るありさまでした。その靈験に肖ったのか朝起きると見た事もない人が、我が家の社に手を合わせていたり、お賽銭が上がっていたり、お酒が上がっていたりしていたのです。

その後様々な不思議な出来事が発生し、改めて神靈のなせる業を実感したのでした。

後日、社に鎮座している御分霊もお位上げなる儀式を行い、格上げとしたのです。

それ以来、今日まで我が家の社に鎮座している宇迦之御魂大神は世の為、人の為にご利益を授けているのです。

第二章 不可思議な体験

一、靈的遭遇事件

私は霊媒体質、靈感体質のために数々の不思議な靈的現象に遭遇しています。

時には身の毛もよだつ程の体験をし、パニック寸前の時も沢山ありました。

これは怪奇現象を集めた話ではなく、霊媒体質であるがゆえに私自身が実際に感じられたり、見えたりした事ですので、その出来事を体験談としていくつか披露してみます。

私も非常に恐がりですが、恐いのが苦手な人はこの部分は読まない方が良いかと思えます。

金沢の怪

場所は石川県金沢市での出来事です。写真の撮影旅行で四度、会社に勤務していた頃、仕事で二ヶ月程金沢で仕事をしていた事がありました。ある時、撮影旅行での出来事です、夕方になり、そろそろ宿を探さねばと思いい旅館を訪ねていたのです。しかし行く先々のどの旅館も泊めてもらえないのです。理由は「お客さん一人ではねえ」と、どの旅館も同じ返事でした。

そんな宿探しをしているうちにとうとう十一時になってしまったのです。のんびりと宿探しをしていられ

なくなり、さすがに焦りが出てきました。「今度の旅館がダメだったら野宿だ」と心に決め、ある旅館の玄関をまたいだのです。

「こんばんは、一部屋空いてないでしょうか。」「泊めて下さい」とすると人の良さそうな主人が「泊めてあげたいが、あいにくいっぱいです……」そこで私はドラマなどでよく見るシーンを思い出したのです。そして「お願いですから泊めて下さい。もし部屋がなかったら廊下でもいいです」と言ってみました。するとどうした事か、主人は奥さんと呼んで来たのです。「おい、このお客さんにあの部屋を案内してやれー」と言うのです。

すると長い廊下の突き当りの部屋へ案内され「それではこの部屋になります。どうぞ」と言うのです。部屋が空いているのにいっぱいであると言われたのはショックでしたが、部屋に入るとなんと絢爛煌びやかと言いましようか。すばらしい部屋に案内されたのです。

やっこの思いで、手にした宿なので、有り難みを深く味わい感謝するものでありました。

しかし時間は既に遅く十二時が過ぎようとしているのです。とにかくすぐに寝るしかなく就寝の準備をしたのです。寝ようとして床に入ったのだが、少しうとうとしたかと思うと、ムシ熱くて目がさめてしまい、繰り返し眠れそうにもないのです。

いくら目を瞑って静かにしていてもなかなか眠れなく、街灯の光がかすかに入る洗面所の横に暗い部分があり、そこに何か人の影が見えるのです。なんだろうと思ってみるとそれは影ではなかったのです。透き

通っている人間でした。いや、実際にはこの世の人間ではなく、女性の霊体でした。もうこれで完全に眠る事が出来なくなってしまうたのです。

よく見てみると髪の毛の長い面長の女性が斜め横を向いてうつむきかげんに黙っているのです。確かに足の部分が見えなくて、上半身だけだったのですが、もうこうなったら怖くて眠れません。その晩は部屋の電気を全部つけて結局一睡も出来なかったのです。

さっそく次の朝、奥さんに聞いてみたのです。「すみません。お聞きしたいのですが、実は私が昨日泊まった部屋ですけど、一体何があった部屋なのですか！」と、すると

「それは、主人から聞いて下さい」と奥さんが言うのです。私はなるべく人目のつかないところで主人につそり聞いてみたのです。「あのー怒らないから教えて下さい。あの部屋は一体何があった部屋なのですか！」

「私は何度も経験しているから大丈夫です」と言う主人は「あんたがどうしても泊めてくれと言うので案内したのですが、実はしばらく使用してなかった部屋なのです」と言うのです。それは一体どういう事なのか聞いてみると「実は三ヶ月程前に泊まった女性があの部屋で自殺されました、それ以来あの部屋は使っていないかったのです」と言うのです。

箱根温泉の宿

季節は十二月の初旬、箱根へと旅行に出かけた時の事です。霊的な現象は行く先々の宿での出来事が多いのですが、今回も宿泊した時の事です。

旅行といっても例によって宿を予約しないでぶらりと一人で旅に出る趣味の写真撮影旅行なのです。

いつもの様に夕方になり撮影が終わり、現地からいちばん近い宿に泊めてもらおうと、その宿の玄関に向かったのです。すると何と言うかあつさりと泊めてもらえる事になったのです。

箱根温泉そこはなぜか午後から霊的な感覚に迫られ霊体が非常に多く感じられたのです。

いつもはなかなか宿が決まらない事が多く、あちこち探し回ってやっと宿にたどり着いた挙句に霊的な現象に遭遇してしまうと言う事が多いのですが、今回はラッキーだったのか？旅館の名は伏せておく事にしますが、夜になり食事も終わり、あとは寝るだけです。私が泊まった部屋は二階で、なぜか三階が騒がしいのです。「ドタン、バタン」していてとうとう「幽霊登場か」と思ってみたのですが、うるさいと思いつつも十分程がまんしていたのです。

するとドタンバタンは治まり耳を澄ますと女性の声です。静かになったのでその女性の声はより大きく聞こえてきた様に感じていました。どうやら幽霊騒ぎでもないらしく、女性が「うふふ、うふふ」と笑う程度だったのです。

幸い静かになったので安心して寝る事が出来たのです。無事に朝がやって来て、ちよつと寒く感じられ外

を見ると雪が降り始めて来たのです。

それにしても体調不良で何だか目眩がするのです。霊的な現象が発生する時に体調が悪くなる事は良くある事なのです。でも今回は何も出なかつたので、その部分ではひと安心していたのです。

朝食の時に私が一人で食べていると主人が来たので、「今日はお客さんが少ないのですか？」と言うと「夕べ泊まったのはおたく一人だけですよ」と言うのです。私は不思議に思い「じゃー三階に泊まったのはお客さんじゃないのですか？」と聞くと主人が「お客さん、ここの旅館は三階なんて無いですよ。」というのです。私はぞおーっとしました。

すでに主人の瞳の奥底に『また出ましたか！』って私には見えたのですが、最初からおかしいと思っていました。それにあの「うふふ、うふふ」という声……

帰り際に小雪の降る中、旅館の三階を見上げたのですが、本当に二階までしかなかったのです。

出雲大社の怪

出雲空港から宍道湖までバスが出ているのです。今回も撮影旅行、宍道湖を手前にあてがい島の鳥居を見ながら、夕日をバックにすると良い景色になります。思わず宍道湖に対する信頼の念と、安らぎを抱かずにはいられない状態でした。現地の人に言わせると毎年十月二十五日ごろの景色が見頃だと言う。

過去に出雲方面へは三度程訪れたが、いくらメモリー回路を開いてみても出てくるのは宍道湖の夕日でした。たしか、出雲から一畑電鉄で出雲大社まで向かって、大社前で降りた記憶があります。

今回の霊体験は出雲大社を訪れた時、大社前の旅館内での事です。ここでも旅館の名前

はあえて伏せておく事にします。今回は旅館は既に予約していて、スムーズに入館する事が出来たのです。

真夜中寝ていると何処からともなくお経が聞こえてくるのです。どんなお経だか判らないが、だんだんと大きな音になり、こちらに近づいてくるのです。

「ナンダラカンダラ、ナンダラカンダラ」私はお経は般若心経くらいしか知らないのですそのお経は般若心経ではない事は確かでした。

「ナンダラカンダラ、ナンダラカンダラ」すると泊まっている旅館の部屋の壁に、白装束で沢山の人達が見えるのです。それも映画の画面を見ている様に、向こうからこちらへその人達が急ぎ足で歩いてくるのです。

「ナンダラカンダラ、ナンダラカンダラ」ちょうど巡礼の人達の様には頭には蓑をかぶり、手には杖を持ち足袋を履いて急ぎ足でやって来るのです。まるで壁がスクリーンとなり、真夜中に私に特別な映画を見せてい

るか様だったのです。

夜中に勝手口に行っても誰もいません。玄關に行っても誰もいません。隣の部屋へ行く訳には行かないし、私は今回出雲大社へ来たのだ。霊体験をしに来たのではないのですが、目を瞑るとお経の様な音が聞こえて来るのです。そして目をあけると白装束の映画が見えるのです。

一体これはどうなっているのか今でも不思議でたまりません。しかたなくこの日は夜明け前に起きてしまい、薄暗い参道を歩いて行き早朝に出雲大社をお参りして来たのです。

野沢温泉の怪

これも新潟から長野へ向けての甥と二人の撮影旅行での出来事です。以前に大きく報道された新潟地震の震源地でもあり、豪雪としても取り上げられた付近での撮影でした。

今回の新潟地震や豪雪での被災者の皆さんにお見舞い申し上げます。一日も早く元の生活に復旧されますよう心よりお祈り申し上げます。

この地震の震源地とされるところから程近いところに、松之山という温泉地があります。

段々畑があり、夏場に行くときと素朴でもとても良いところです。隣の町は日本でも年間の降雪量が最も多い津南町なのです。雪が多く降るために家々が下駄を履いているというイメージです。といっても家の一階の部分がコンクリートで出来ていて冬場は雪のため二階の部分から出入りしているらしいのです。

その日も撮影が終わり、松之山温泉でのんびりして次の日に帰るといふ予定でした。

撮影が夕方までかかってしまったため、例によって宿探しが始まったのです。

今回は温泉地という事もあり、あまり人に知られていない場所なので、安心して宿を探す事が出来るかと思つたのですが、しかしそう簡単にはいかなかったのです。

今みたいに携帯電話を持つているわけでもなく、電話ボックスに置いてある電話帳を開けて宿へ電話する事八件、どこの旅館も満室なのです。その時に限り甥である子供を連れていたため、やはり野宿という訳にはいかなかったのです。

当時、松之山温泉は密かなブームで県外からも沢山の人がやって来ていました。

これ以外に旅館はないし、こんな風に宿が見つからない時はけっこう霊体が出る前兆なのです。

そこで松之山で泊まるのは諦めて、田舎道を車で飛ばし長野の野沢温泉へと向かったのです。幸い野沢温泉では二件目で泊まる事が出来て一安心でした。

さてこれからが問題なのです。甥と二人で眠りについたのですが。夜中の何時ごろだかわからなかったが、何となく目がさめてしまったのです。初めて泊まる旅館や遠いところで宿泊した時、夜中に目がさめてしまったら、なぜか部屋の隅々まで見てしまう自分がいるのです。

すると居たのです。部屋の隅でこつちを向いています。テーブルの高さで首から上だけの霊です。男性で五十代後半か六十歳くらいです。さっそくコップに水を持って来て、バックの中のお菓子と飴をテーブルの上に置いて、帰って頂く様話しかけてみたのです。

「頼むから出ないで帰ってくれ」「いったいあなたは何の目的でここに居るのか！」

「名前は？」「お願いだから消えてくれ」と、何度も何度も、しかし何の返答も無いのです。

ここで社会勉強というところちょっとおかしいが、あるものを見せてやるからと言い、寝ている甥を起こしたのです。「おい、あそこを見てみる」「何か見えないか！」「何も見えないよ」「いるんだよ見えないか！」と何回言っても指差しても甥には見えないというのです。どうやらその時見えていたのは私にだけだったらしいのです。

佐渡ヶ島で

夏休みに佐渡島へ行った時の事です。当時の目的は海水浴と海釣りだったのです。昼間は沢山の人のいるところに混じり、海水浴を楽しんでいました。そして夕方から夜にかけて人里はなれた崖壁で海釣りを楽しんだものです。

予約してある民宿に着いたのですが、夏の事で沢山のお客さんが民宿にいた記憶があります。食事を済ませ食堂にいた時、民宿のおばちゃんが、「あの一今日は申し分けありませんが、相部屋となりますがよろしくお願い致します」と言うのです。

「どうしてですか！」と聞くと「実はお客さんが多くて部屋がいっぱいなのです」少々不満があつたのですが、しかし相部屋を経験した事の無い私は、かなり神経質になつていたので。

申し込んだ時と約束が違うので、思い切っておばちゃんに言ってみたのです。

「すみません、今日は疲れているので出来れば相部屋じゃない方が・・・」
「そうですか、ちよつと待つて下さい」

「それではこちらの部屋でいかがでしょう」と一部屋に案内されたのです。

部屋の畳が濡れていて嫌な感じはするけど、まあ夏場の民宿はどこもムンムンしているのを知っていたので、せめてもの一人になったのをラッキーと思ひ、部屋に入る事が出来たのです。しかしその部屋はむしろ暑くてムンムンして寝られないのです。今までこの様な時は必ず例（霊）のものがお出ましになつていたので

すが、今夜は出る。間違いなく出るという感じで、もう落ち着いて寝られないのです。

夜中に何度も電灯を点けたり消したりしてみたが、なかなか霊的なものはどこにも出て来ないのです。おかしいなあとは思っていましたが、この時、私の気持ちは物音ひとつでパニック直前だったのです。結局朝になってしまったが一睡も出来なかつたのです。

朝になっておばちゃんに聞いてみようと思います。例によつて「おばちゃん、あの部屋何かあつたのですか！」と聞くと「あなたが、相部屋が無理だというので使ってもらつたけど」、「あの部屋はねえ、実は昨日まで海で溺れた人を安置しておいた部屋だったのですよ」と言うのです。帰り際に細かい事を聞いてみたら、本土からわざわざ島へ出向いて自殺をしに来たというのです。困つたと言っていました。

ひと玉に誘われて

毎年入梅の頃になると、それは私にとっては忘れもしない。ひと玉の季節になるのです。

何回も見ているひと玉は、けっこう入梅時の早朝や夕方に多く目撃しているのです。

ある時私の姉の家へ行つた時の事、いつも一時間ほどかけて車で行くのですが、あまりに遠いので、今回は違う道走って近道をしようとしていた時の事です。

夕方になってしまいあたりが暗くなり、初めての道なので迷ってしまったのです。

どこをどうやって走つていいのやら、さっぱり道がわからなくなつてしまい、細い路地に入ると右前からヒョロヒョロ、ヒューと前の方へひと玉が飛んで行くのです。

何度か見ているのでそんなに恐さはなかったのですが、もしかしたら私が道に迷つたので道案内して、助けてくれるのではないかと思い、急いでそのひと玉の後を付いて行つたのです。するとあと五十メートルも走ると渡良瀬川の川原の方へ行つてしまうという所へ出てしまいました。二分くらい急いで走つただろうか。田舎道に一軒だけ家があり、そこへ来るとひと玉は消えてしまったのです。その先へ向かつて行こうとしてもその一軒屋が最後で通行止めなのです。しかたなく一軒あるその家の庭で車をＵターンさせてもらおうと、車をバックさせたのです。するとその家の玄関に灯明が二つ立っていて、忌中と書いてあつたのです。とんでもない道案内でびっくりしたものでした。

魔の温泉地

いつもの撮影旅行ですが、今回は撮影旅行が終わる直前に、アクシデントに遭い、撮影地を逆に走って来る事になってしまったのです。群馬は松井田から草津、中之条へ戻る途中を北に入り、四方温泉での一泊しようとしたのです。一人旅の時はいつも宿を探すのが大変で時々旅館の玄関で宿泊を断られるケースが多かったのです。

実は今回、妙義山の駐車場の電話ボックスから、交通公社に勤めている知人に、事情を話して宿を予約して貰っていたのです。「とても良い温泉旅館だから楽しんで来てよ」といわれ、向かったのです。途中いくつかの撮影ポイントがあったので足を止め、良いところ撮りだけで宿へ向かったのです。

宿へ着いたのは夕方です。暗くなっていたので、この時ばかりは予約したせいかな、女将さんも気持ちよく「いらっしやいませ」を言って頂いたものでした。

撮影旅行時は何と言っても撮影以外に宿でのマッサージも楽しみであり、入室前に予約を試みたのです。とりあえず風呂に入り身体を温めてからと思いき、暖簾をくぐったのです。風呂場に入ろうとすると風呂場の戸がすでに開いていて、入り口にはスリッパが不揃いで置いてあり、中を覗いてみると一人の年配の男性が入っていました。うす汚そうで赤い顔して何度もこちらを振り返り見ているのです。あげくの果てに浴槽の横で小便をしているのです。それを見た瞬間、私は気分を害してすぐに風呂を上がってしまったのです。

部屋に戻りマッサージにかかり、いよいよリラックスする時間帯となってきたのです。

一時間の癒しのタイムも終わり、先程の気分転換に再度風呂へと向かいました。

しかし入り口では一時間前と同じ様にスリッパが傾いたままです。不思議と思いつつ裸になり浴槽へと向かったのです。

すると浴槽に男性が裸でうつ伏せになりプツカリと浮いているのです。湯面をよーく見たが動いていません。もしかしたら一時間前からこの人は浮いていたのかも知れないのです。たぶんこの時点で死んでいたでしょう。

しかし私は全然慌てませんでした。自分ひとりで助け出そうとしましたが、たぶん手遅れだと思い、裸のまま女将さん呼びに行っただけです。

「女将さん、女将さん」「どうしました」「女将さん、いいですか慌てないで下さい。ビックリしないで下さい。」

「あつ、はい」「実はですね。今、風呂場で浴槽に男性が浮いていました」「すると女将さんは「お、お、おとうさーん」「お、お客さんこの先、私はもう聞きたくありません。」

そんなやりとりの後に、そこへ温泉宿の主人が飛び込んで来たのです。「主人様、実はコレコレ云々です」「そりゃー大変だ」結局その主人と私とで浮いている男性を引き上げ、意識不明で心肺停止をしている男性

に心臓マッサージを始めたのでした。

何度も何度も人工呼吸しているのに一向に息を吹き返す事はありませんでした。

「源さん、だから酒飲んで風呂入っちゃダメだと言ったのにー」「おとうさん今から救急車呼べば運んでくれるのじゃないの！」するとそこへあわてて駆けつけた隣の医院の先生も、男性を見て首を横に振ったのです。人工呼吸の甲斐もなく亡くなってしまったのです。

その後、私が第一発見者。旅館の管理人が参考人。お巡りさんが三人来て事情徴収が始まったのです。「コレコレ云々、」事情徴収が終わった後でも廊下を通る人たちは一晩中噂話でごった返しているのです。

そして翌朝早く女将さんが私の部屋にやって来たのです、「夕べは大変でしたでしょう充分眠れましたか！」「お願いですからこの事は地元へ帰っても話にはしないで下さい」その後私は家に帰ってから交通公社の知人に「もう二度とあの旅館には泊まりたくないよ」と言っただけです。これも霊媒体質がゆえに身の回りで起きてしまう事実なのでしょう。

二超能力の実際

予知と透視

アメリカで同時多発テロが発生する約六ヶ月前の事ですが、いつもの様に私は寝る前に目を瞑りわずかな時間ではありませんが、瞑想の時間の時でした。大きなビルに飛行機が刺さって黙々と煙を上げて燃えているのです。いったいこれはなんだろうと思っていたのですが、さっぱり何の事だかわからなかったのです。

そのころアメリカではブッシュさんが大統領に就任されニュースのひとつとしてテレビ報道されています。どうみてもブッシュさんと、この飛行機事故を切り離す事が出来なくて、当時私のインターネットのホームページでこの事を書いたのです。当時は今ほどホームページの数は多くなかった様で、私も手作りで作ったタイトルと同じ「神様がくれた神通力」と題したホームページを作って持っていたのです。

そのホームページには私の神霊に関する不思議な体験や、不思議な出来事を載せていたのです。その中に「今後の予知予言コーナー」というタイトルでページを持っていて、その予知予言コーナーに、「ブッシュさんが政権を握るとテロが起きる」と題してその事を載せていたのです。

忘れもしない九月十一日、朝からテレビ各局で私が瞑想の時に見たのと同じ光景がテレビで放送されていたのです。こういう事だったのかと、私も改めて実感したものでした。

しかし世間では私に冷たく当たって来たのです。当時ホームページに設けていた掲示板に「お前は事件が起きてから書いたのだろう」とか、「ホームページで人騒がせな事はするな」など罵声を浴びさせられる事と

なつたのです。

しかし私はホームページにアップしたのは半年も前の事であり、事件が起きてから書いたのではなかったのです。ところが黙って掲示板を見ていたところ、三ヶ月前にすでにホームページでテロの事が書いてあったと証言する人も何人か出てきたのです。

それからというもの掲示板上で事前にテロの件を見ていた派と、信じない派とがトラブルとなつてしまつたのです。その後も新潟中越地震、ライブドア事件、スマトラ沖地震と予知されるものがありました。私の手の内に納めておく事として、起きない様に願うだけだったので。結局トラブルの元となる掲示板は今で言う炎上と言う事になり、廃止せざるを得なくなつたのです。

予知された事はもちろん見ようとして見たのではなく、見せられてしまつたと言うべきだと思いますが、確かに人騒がせだつたに違いありません。また、この様に予知される事については私の場合、見ようとして見えるものではないのです。反対に見たくもないのに見せられてしまつた、という事も多々あるのです。

それは事件や事故だけのものではありません。日常生活において自分の体調に関しての事だったり、人間関係の事だったり、また仕事や恋愛に関しての内容にいたるまで様々な分野で見せられていたのです。未来に起きる事はもちろん、すでに通り過ぎてしまつた過去の事に関しても見えていたのです。

リアルに見え始めた頃は面白く感じられました。例えば会社の出張で出張先の事が出向いていく前に、前もつてわかつてしまつた事など、初めて行く土地なのに海が見えたり、お店があつたり、道路事情まで鮮明

に見えてしまった事もありました。一緒に行った人達に「どうしてこの道の先がわかるんだ」と言われ、知らないところへ行く時は初めて来たのにもかかわらず、その後は私に道を聞く様になった人もいます。またある時は食べるとお腹を痛めるとわかっているのにもかかわらず、腹痛を起こして慌てて予知があった事に気づき、あの時見えたのが警告だったのかと勉強させられた事もありました。

私の尊敬する人物の一人に眠れる予言者の名をもつエドガー・ケイシーが、いますがケイシーに関しては次回のチャンスにお話しする事にして、もう一人オランダにジェラルド・クロワゼットという人物がいたのです。彼は亡くなる前に日本へも来日した記憶があります。行方不明になった子供達を透視で探し当てるといふものなのです。現地の警察等へも協力をし、犯人逮捕の役割もしていた様です。私も一時期その様な事を見た事がありました。その時は県内でも数件の子供誘拐の事件が発生していたのです。橋の上から子供を投げ落とすという恐ろしい事件、そして誘拐されてから解決するまでに長引く事件など記憶があります。もしこの能力が私にも使えればと思ひ、私自身が瞑想に入り事件解決に少しでも協力できればと挑戦した事もありました。

すると西の空に夕日が降りる頃小さな男がスコップを持って、川原で何かを埋めている姿を見たのです。周りには広い川原なのに一つだけ小さな井戸らしい、ポンプ小屋らしいものも見えていました。その後気になつて毎日毎日その時見たものを思い出していました。

そしてある時思い切って地元の駐在所へ行って相談してみたのです。現代的な考えを持っているお巡りさんにこんな事を話しても、信じてもらえるだろうかと心配もありましたが行ってみたのです。するとお巡りさんは「信じるよ、信じるよ」と言うのです。

もちろんお巡りさんには私の感じている霊感的な事や、何とか協力して長引いている事件を一日でも早く解決して頂ける様にと話したのです。お巡りさんは早速非番の時にでもそこへ出向いてくれると言ってくれましたけど、結局後になってそのポンプ小屋の近くで少女の遺体が発見されたといえます。

遠読術

正式名は分かりませんが、私が勝手に遠読術と呼ばせて頂いているだけなのですが、よく人の唇の動きを見て、何をしゃべっているのか読む人もいますが、私の経験した事はこんな内容でした。東京で年に二回、カメの好きな人達が集まって、あらゆるカメのグッズやカメに関しての販売会や情報交換が行われるのです。世の中にはこれ程までにカメの好きな人達がいるのにもびっくりさせられるのですが、ペットを愛して沢山のグループまでが出来ているのに、ただただ驚くだけです。これが犬や猫の愛好家となるともつと沢山の人が存在しているかと思うと本当にびっくりしてしまいます。

カメというだけに、東京での主催は亀有とか、亀戸などで行われているのです。開場時には百人をも超える沢山の人が列を作り並んで会場を埋め尽くし、我々関係者すら身動きの出来ない時間帯もあるのです。

そんな中である関係者がこちらを向いているのです。もちろん沢山の人達がいるので他の人達に遮られ、見えるのも一瞬で、すぐに人の動きがあり見えなくなってしまうのですが、なんとあの沢山の人達が、がやがやしている中で、その関係者二人だけの声が聞こえて来たのです。よく聞いていると、当日我々が出品したカメラパンが二十三分で完売した事の噂話をしているのです。沢山の人達がざわざわがやがやしているのに、十五メートルも離れていた彼らの声だけが浮き彫りになり、聞こえて来ているのです。たとえ二〜三メートルはなれていたにしても、あの人ごみでは聞こえもしない声が本当に聞こえるのです。

引き続き聞いていると、今度は我々の悪口を言い出したのです。彼らにしてみれば聞こえはしないと思い

話しているのだろうと思うのですが、すべてが私の耳元で聞こえているのです。沢山の人がいてがやがやしている中で、遠くはなれた声が聞こえてくるのも不思議でしたけど、私に対する噂話もすべて聞こえてしまい、神は人間関係も上の世界から教えようとしていた様です。

三、相談者から学ぶもの

私の元へは色々な相談事が持ち込まれます。自分自身の将来、仕事、恋愛結婚、人間関係やお金の問題、多種多様な様々な相談事が持ち込まれます。特に最近では子供、学校そして学校の先生、子供の親による問題も多くなつて来ております。また、成人にあつては鬱などによる精神的な病も後を絶ちません。そんな中で持ち込まれた相談者から我々も学ぶべき事と思ひ披露させて頂きます。

神棚から多額の金が消えた

ある時茨城県で少年が行方不明になる事件が起きたのです。彼は三十歳で所持金およそ三千円しか持つていなくて、突然行方不明になったのです。家族の話によると仕事と私生活で悩んでいたらしいと言うのです。数日後に兄の夫婦という人達が私のところへ尋ねて来たのです。すでに警察へは捜索願を出したが一向に連絡が入らないというのです。どうしていいかわからないとの事で、藁をもすがる気持ちで私のところへ来たというのです。

全ての事情を聞いた私は神様にお祓いと祈願を済ませ、視差後のアドバイスをしてやっただけです。湖が見えるので「北浦とか霞ヶ浦という湖の湖畔を探してごらん」と言ったのです。すると兄の夫婦は明後日の日曜日にその付近を捜してみると言い帰って行ったのです。

幸いにも一週間ほどで少年を発見出来、飲まず食わずで、北浦の湖畔で車の中でぐったりしていたと言う

のです。視差のとおり北浦の湖畔で発見する事が出来たのです。

関係者にとつてみると、この件で私のところが、神様仏様の様にすごく喜んで頂き、ふたたび兄弟夫婦が私のところへお礼に見えたのです。そして沢山のお礼を頂き神棚へとお供えして帰って行きました。

ここまでの話は良くある事なのですが、ところが数日後神棚に供えてあつた沢山のお供え物がなくなつていたのです。

家族のものが取る事はなく泥棒が入つた形跡もない。一体何処へいったのだろう。

仕方なく神様にお伺い立てて聞いてみたのです。すると年配の女性が持つて行つたと言います。その女性には神棚に供えてある。六亡星ダビデの星のシールも持つていつたと言います。よく調べてみたら確かに神棚に置いてあつた六亡星もなくなつています。

神様によると以前から六亡星のシールを欲しがつていた人だと言います。そういえば思い当たるのはたつた一人、以前に六亡星の話をしてあげた時に非常に興味を持ち、そのシールを欲しがつていた相談者がいたのを思い出したのです。六十歳前後でいろいろと問題のある人なのです。

それ以来、私はその女性が私の元へ相談に来る時には注意をしていたのです。「防犯カメラを設置しました」という看板を掲げ、カメラに映っている姿を見ていたら実際に神棚のところへ行き何かをやっているのです。私はその時、この人はさびしい人生なんだなあーとつくづく感じてしまいました。

するとその頃から彼女はとても静かでおかしな感じになつて来たのです。糖尿病を医者から指摘されたと

言い、彼女からお願ひされる度に私は神様に祈願してあげているのですが、一向に良くならないのです。体がだるくなつて来たと言ひ、味覚もわからなくなつて来たと言ひのです。それどころか目にも影響して来たらしく、視力も弱つて来たと言ひ、いくら祈願しても良くなる事はなく彼女はとうとう失明までしてしまいました。

結局その後彼女は私の元へは何の音沙汰もなくなつてしまつたのです。

私は霊界を覗くのは好きではありません。恐ろしく嫌な感覚に襲われ、恐れ多くも生きている我々が勝手に霊界などを覗くものではないと思つています。従つてその年配の女性が今霊界にいるのかあるいは現世にいるのか知ろうとも思ひません。おそらく神棚から黙つて持つていつた以上に、治療費もかかつたに違ひありません。この様な事はたまにあるのですが、いくら神様にお願ひしたからといい、完璧に悩みが解消するという問題でもないのです。

神様は改善する様にお導きはしてくれても、結局問題解決するのは当の本人なのです。

「はい、わかりました間違ひなく、その様にしますので・・・」と言ひ、帰つても、私が指示した事を守つてくれない人は救われないのです。また、相談に来ていながら約束を守らない人も多いのです。本当に口先だけであたかも言われた事をやる様なそぶりを見せても、指示に従わない人はなぜかせつかく祈願してあげたのにもかかわらず、霊的なものが私の元へ帰つて来てしまいます。すると当然私の体調が病んでくるのです。本人の口からは「はいやりました」と言われても私の体調に現れるので、すぐわかる事なのです。

行方不明事件

私の住んでいるところは外国人が多く、特に隣の大泉町では人口当たりの外国人の数が日本でいちばん多い町だと聞いています。確かに日本でありながら外国語の看板のお店があちこちにあり、道行く人達もよく見ると外国人だったという事がよくあります。

ブラジル人の数も多いらしく、サッカーなどの試合のある時はお店の大きなテレビが張り裂ける様な音量でサッカーの中継を見たり、騒いでいる人達をよく見かけるものです。

私が空手道の道場を持ち教えていた時もブラジルの人達をはじめ、ペルーの人や東南アジアの人達も稽古に来ていました。余談になりますが、その空手道を習いに来ていた子供で小学四年生の女子だったのですが、たかが十歳なのに家庭の事情で小学校をやめて、働きたいと言っていた生徒もいました。さすがにこの子にはびつくりしましたけど・・・

ある日の事ブラジル人でお母さんと子供の娘さんと二人して私の元へ尋ねてきた人達がありました。ブラジルではポルトガル語を話し、そのお母さんは日本語を話す事が出来なくて、子供を通訳にして私のところへ来たのです。日本へ来てまだ数年だろうと思うのですが、さすがに子供は日本語がペラペラなので、言葉に關しては何の心配もなかったのです。

相談内容は突然お父さんがいなくなったというのです。母親はほんとに元気がなく私にせひ探して欲しいというのです。見るからに力を落として悩んでいる姿が見えるのです。

相談前に彼女らの行きつけのお店から私のところへ電話があり、ブラジルの人が何うから相談に乗って欲しいという連絡が前もってあったのです。霊能視差をやつていくと自転車や山が見えて、どうやらお父さんはどこかで元気でいる様なのです。

視差結果を通訳である子供に説明してあげてその日は帰って頂く事になりました。その後私は心配でわざわざブラジル人の行きつけのお店へと出向いてみたのです。するとなんとすでにお父さんが見つかり、家族三人でブラジルへ帰ってしまったと言うのです。涙ながらにお父さんを探して欲しいというのは一体何だったのでしょうか。私は金取り主義で相談を受けていたわけでもないのに、せめてお父さんが見つかったという連絡の一言くらいは欲しかったと感じたものでした。

四、超能力の不可思議

マスコミの取材

昨年、出版会社経由で霊能者のテレビ出演の依頼があつたのです。この様なテレビ出演などマスコミへの取材は年間を通して五、六件はあります。もちろん丁寧にお断りさせて頂きましたが、以前にある女性の霊能者がよくテレビ出演をしていたのをご存知でしょうか。

あの方がテレビ出演している時の表向きの状態と裏側での状態があまりにも違いがありすぎたのでびっくりしたのです。霊的な内容に関しては一般の人達にはなかなか理解してもらえないためか、テレビ局側の方でもスタッフは影でその霊能者をただのテレビのおもちゃとしか見ていない様子なのです。それどころか透視が外れるとそれこそ、ぼろぼろに言われているのです。酷い時にはある番組のディレクターやプロデューサー達が「今日は化粧が濃い」とか「歳をとったなあ」とか、「あのばばあ」等もう言いたい放題なのです。これでは本当に救って欲しい人も救われないと実感しました。あくまでもテレビではショーというのを頭に入れて行動すべきだと思いました。

また霊能者の側から見ても売名行為には絶好のチャンスかと思われるのです。テレビでは優しく対応しているのに、実際に逢つて見るととても不愉快な思いをしたなどという情報も私の元に見える相談者が語つてくれます。それはというのも私の元へ相談に来られる人の中には、テレビ等に出演して、ある程度有名にな

っている人の元へ相談に行つて来たという人が後を立ちません。

またその様な人達をハシゴしてくる人達もいるのです。有名な人に逢つて相談して来るのは結構な話なのですが、それだけならまだしも、聞いてみると相談料の高い事です。

どうして有名になると相談料まで高くなつてしまうのか、「私と同じ事をやっているのに」という意識があるせいなのか、私にはとても信じられません。

確かに霊障害や地縛霊などを扱い、私自身に憑依した場合など、苦しんだり、寝込んだりし、多額な請求をする気持ちがない訳ではありませんが、それは別としましても、占いの世界においても同じ事が言えている様です。やはり悩みを持っている人にとつてみれば何であれ、すがりたい気持ちなのでしょう。

恐いと思いつながら足も足を運ぶ相談者に、その場で叱りつけるというやり方にも確かに問題はありませんが、売名行為や金儲け主義に走つてしまつては問題だと思ひます。この様なことが繰り返されるから、いかさま霊能者やインチキ金儲け占い、そして視聴率だけにしかこだわらないマスコミが後を絶たないのです。まじめに相談者へ、親身になつて相談を受けている霊能者も沢山いるのです。

私の元へある有名なテレビの番組も依頼して来たのです。「今回は某テレビ局で心霊に関する特集をするというので是非出て欲しい」と言うのです。依頼主はテレビ番組制作協力会社としてあり、送つてきた内容によると「霊現象でお悩みの方」とするらしいのです。

この様な内容で書いてあつたのですが、電話をかけてきた担当者は依頼すると同時に「今回はすこし派手

にオーバーにやりましょう」と言つて来たのです。それどころか「今回は少々嘘が入っていても良いですから」と言うのです。あれにはすごいショックでした。

売名行為なんて私は大嫌いですし、金儲けでやっている訳でもありません。ただ悩める人が一人でも救われ、一人でも信じてくれる人がいればそれだけでいいのです。今は正しく主張のできる演出の深くない番組を探しているだけです。

日本の十人の霊能者というタイトルで某雑誌の取材を受けた時の事です。取材内容が気功と、パワーストンの関係で、私がパワーストーンに気を送ると、そのパワーストーンが動くという実験を取材に来たのです。記者の前でそのパワーストーンに気を送り続けたところ間もなく、そのパワーストーンがコロコロと動いたのです。

記者はそれを見て「動きましたね、動きましたね」とびっくりしていた様子でした。

私はこの様な取材の時は動いてはくれないものかと心配はしていましたが、すぐに動いてくれたので安心したのです。

取材も終わり雑談になった時、別記しましたが、私は雑談の中で記者に行方不明になったり、誘拐された人達を何とか探し当てたいと、自分の能力を駆使して努力して行きたい旨の話となって来たのです。記者も興味を出し、私も地元でパチンコ店から誘拐され、行方不明になっている子供の話になったのです。ふとし

た事から犯人はこの辺に住んでいるのかも知れないと言ったら、記者はどの辺に感じられるのか知りたいというのです。

記者は電車で私のところに見えたので、帰りに駅まで車で送っていく時に、その犯人らしい人が住んでいる付近を通ったのです。すると記者は「車を止めてくれ」と言い、車から降りて行ったのです。よせばいいのに、じろじろとその家の周りを眺めて来ているのです。結局半日かけた取材も終わり記者も出版社へと帰って行ったのです。

あれから一週間ほどが過ぎ、出版社が扱う書店から、例の気功とパワーストーンを取材した月刊誌が私の元へ届いたのです。日本の十人の霊能者というタイトルで出ていたのですが、内容が変更されて気功とパワーストーンではなく、「あの誘拐事件の犯人は近くに住んでいる」というタイトルになっているのです。雑談で話した内容なので「この件は載せないで下さい」と念を押していたにもかかわらず出してしまったのです。

確かにあれからマスコミに対して、私が神経質になっているのも事実ですが、真実であるという事が確証出来ない状態で表に出されてしまったのは、こちらの信用問題にもなりかねません。インターネットのあるグループでこの様にマスコミに対して批判的な内容を少しでも取り上げ様ものなら、私のページのアクセスが一気に上がるのです。

宗教と超能力

私は宗教が好きではありません。特に新興宗教というものにはかなりの抵抗があります。

その大きな原因の一つとしては、私に宇迦之御魂大神が降臨した時に、話を聞き分け、何人かの宗教家が連絡して来たのです。中略して結論から言いますと、「あなたの力を利用して宗教で大儲け」を試してみないかという事なのです。これが人間の真の道徳を解き明かし、幸せへと導くべき人達のトップが考えている事なのです。以前に何度か宗教的なものを見させて頂いた事があるのですが、トップに立つ能力を持つ人達は、確かに普通の人が持ち合わせていないオーラを持っているのも事実なのです。紫に銀に輝く人もいました。時にはなんのオーラも見えない、いかさま宗教家もいますが、トップが輝くオーラを持っているのにもかかわらず、第二、第三に続く人はその能力すら無いのです。これは私が見て来た殆んどがそうでした。

私も最近テレビ霊視といってテレビに出てくる人を見る事があります。この時点でこのタレントは将来売れっ子になれるのか、このスポーツ選手は将来有望であるのか、このコマーシャルで利益が上がるかなど、その様な目で見える時があります。もちろんその時点でも予想をはずさないという潜在意識を生かし洞察するのです。この事から言える様に、宗教の組織の中の人材でふさわしいトップなのか、というくらいの見抜く力は何も私に限った事ではありません。見抜けるはずです。見抜けない人は、その宗教一点に目が行ってしまっている人が殆んどなのでしょう。

現在の世の中、宗教が原因で大きなトラブルが起きる事がよくあります。霊障害を取り除くといい、相談

者に暴力を加え、ひどい時には相手の人を殺してしまう。また、言う事を聞かないと天罰が下される様な脅しをしたり、高い商品売りつけたり、弱者を相手に多額の相談料を請求したりと、この人達がこのような事をして良いのかと思う事を平気でやってのけるのです。

ある時、霊能者仲間のお付き合いである宗教団体の中へ招待された事がありました。彼女は幼い時から霊能が芽生え、大変な苦勞と共に生活をされ、後に宗教を立ち上げ、教祖様として活躍されたのです。私は自分に霊能が芽生え彼女と同じ様な心境を、経験してきたので、彼女が世の為、人の為に活躍されたいという気持ちはよく分かります。しかし先ほどの話の様に組織のナンバー二、ナンバー三という人達は、教祖は教祖として上の位置に置いておき、欲の固まりで頭の中で考えている事は、収入になる事だけしか考えていないのです。

帰り際、受付には沢山の宗教グッズが目に入ります。私もお付き合いと思い、白いTシャツがあつたのでそれを手に取り、値段を聞いたのです。「これいくらですか？」と聞くと受付の女性が片手を広げて開くのです。「はあー五百円か」と思い、「五百円ですか？」と聞くと頭を横に振って違うと言います。まさか五千円にしては薄っぺらでそんなには高くないだろうと、一応恐る恐る聞いてみたのです。「では五千円ですか？」と言うとまた、頭を振るのです。もうどうでもいいやと思い、「では五万円ですか？」と聞くと「そうです五万円頂きます」と言うのです。さすがの私もお付き合いとは言え、五万円の薄いTシャツは買う事が出来ませんでした。

本物か、偽者か

霊能の実態としては、ある程度靈感力のある人ならば霊能作業をやつてのける人は世の中には時々存在します。しかし現在では霊障害でもない人を霊障害だと言いつ自稱霊能者が沢山いるのにも驚きます。そのうえ処置するのに多額の請求をしたり、除霊、浄霊の真似事をするイカサマ霊能者や偽者の人たちも世の中には沢山いるのです。私のところへ相談に来られる人の中でも自称霊能者と言われる人や、よくテレビに出て名前の知られている霊能者から、視ていただいて霊障害だから除霊してあげる等と言われたという人も多くいます。

しかし本当の霊障害の人はほんの一握りの人に過ぎないのです。本来神仏の降臨もしていないのに霊障害の扱いをして霊能者気取りをしている人達も信じられない程五方といえるのです。そしてただ神仏が好きでその力にあやかり神々の力をもらっている等という人もいます。本来の霊能力を持った人ならば、この様な事は言葉に出さなくても我々が見ればすぐに分かります。その様な人達は自分の守護霊や守護神を知らずに、ただ自分の好きな神仏を崇めているというだけにしかないので。またその様な人に限り、色々な勉強や修行をして霊能力ではなく、読んだり、見聞きした能力が備わり、すでに頭でつかちになり、力を付けたと勘違いするものなのです。私の下へ霊能者になりたい等と言つて来る人の殆どが色々勉強をして神の名前や神話に至るまで、ありとあらゆる霊能力以外の能力や知識を身に付けて来るのです。

私の場合は勉強が先ではなく靈感が現れ、降臨現象が先だったために、今になって色々とその様な能力や

知識を勉強をしているあり様です。修行で霊能力を得たい・・・ゼロとは言いませんが、霊能力は修行で得るものと考えるのはおかしな事であり、それこそ私が子供の頃社に毎日手を合わせる、それが修行だった様に思われます。特に灌修行などにおいては、精神面を鍛える部分では良い方法かと思いますが、私の経験や理論からしても危険が伴い、意味も無いナンセンスなものだと考えています。

本来であれば日常の生活そのものがいわば修行の様なものなのです。気功や癒しの能力の様に陽として発する力として働く能力は、ある程度修行や訓練で身につく事は確かにありますが、受ける力、すなわち霊的な能力そのものは本来人間に備わっている部分であり、すでに生まれながらにして神からの能力が潜在的にプログラムされてあるものなのです。従って受ける霊能力を修行で得ようとするのにはかなりの無理があるものと思います。

小さな子供には靈感が残っていて、子供がお母さんに「部屋の隅に何かがいるよ」と叫んでも、お母さんには見えないので、子供に対しては「何もいないよ」と言い聞かせる事になるのです。この様な子供の持っている霊的な能力も、思春期を迎える頃までにだんだんと無くなって来るのが本来の人間なのです。

むしろ大人になって行くにつれて霊能力が残ってしまう方々が色々な問題を抱えてしまうという事にも繋がってしまう様なのです。中にはその様なものが障害となり、人生上でいろいろと厄介な問題が残してしまうのです。酷い場合は一生涯霊的な事が付きまといつたらぬ人生を過ごしてしまう人すらいるのです。特に女性に多いのですが、思春期頃に霊的なものや、霊的な占いなどに興味を持ったたり、心霊スポット等といわ

れる場所へ行ったり、コックリさん等の様な事をする事により、眠ろうとしている霊的な部分を起こしてしまふ事もある様なのです。

また、恐れ多くも我々人間の方の側で、霊能力に力を必要とする神を選ぶ事は出来ません。興味があるか無いかに関係なく、幸か不幸か神々に選ばれ、霊能への道を進まなくてはならない人が発生してしまう事があるのも事実なのです。この様な事からどこまでが本物で、どこまでが偽者だという事も自然と分かってくる事と思います。

相談者にあたかも霊能作業を施し、多額の請求をしている自称霊能者が風上にいる事や、その事に気が付かないで自分を霊障害だと信じている人がいるのは残念な事です。

オーブと呼ばれるもの

最近、写真に光が写り込んだとかオーブが写っている等と言ひ、あたかも自身の靈感や、心靈現象、心靈写真として強調する人達が増えて来ていますが、勘違いされないために一言付け加えておきます。

一般にオーブと呼ばれるものは、被写体の手前などに霧やホコリ、雨などが降っている場合などにおいてカメラ側でストロボなどを発光する事により、霧や雨が発光されたストロボの光に反射して手前に写り込んだものがピンボケになり、オーブ状となりカメラ側に写りこんでしまう現象なのです。またレンズフィルターに付着した水滴が乱反射を起こす現象もあり、時には丸いものだけでなく多角形をしたものも写り込む事があります。これらもカメラのレンズ内部の絞りを構成している何枚かの羽が、組み合わせさつて出来ているために多角形に写り込む現象なのです。一概に靈的な現象であるという思い込みを亡くすためにも付け加えておきます。

また、フレアーと呼ばれるものに関してもカメラのレンズ内に斜光として入り込んだ光がレンズ内で屈折を起こし、写り込むものなのです。大きさや位置、形はズームレンズで簡単に変えられ、背景の明るさや時間帯、太陽光の角度、フレージングやカメラ内の絞りの設定などで色なども簡単に変える事も可能です。

この様な写真は誰も撮影する事が可能で、靈的なものや心靈なるものとは特に関係なく、撮影者の靈感にもほとんど関係ないものなのです。現在ではこの様な写真は靈感がないと撮影できないと勘違いしている人もい

る様ですが、写真の知識のある人なら100%撮影可能なのです。これからカメラを手にして撮影しようとしている人にも、簡単に試す事が出来ます。

ましてやデジタルカメラの場合は撮影時に液晶の部分で簡単にモニターする事が出来ます。

あたかも神が光を差し伸べた様に勘違いしそうですが、科学的に説明できるものに関してはこの様に理論が分かったり撮影が出来るという事は事実ですので知っておいても良い能力だと思います。もちろん以上で説明の出来ないものが写りこむ事があるのも事実なのです。

五、共時性(シンクロニシティ)

共時性とは同時に複数の事態が類似性や共通性、近接性を持つて表現される様な時を言うのですが、私が過去に経験したものには二つの事態どころか四つ、五つという時もあったのです。わずか一日のうちに八人もの同じ苗字の人と出会うのも単なる偶然には過ぎなかつたと思うのですが、これも一つの共時性といえるのです。

人間が生活している中では肉体以外に高次の世界では一つに繋がっていて同時に進行しているのです。ただ現実主義に生きている人間には高次の部分が見えないだけなのです。

電話をかけようとして携帯電話を取り出した瞬間、かけようとした相手からタイミングよくかかって来た等と言う事があり、テレパシーが通じた等と言いますが、まさしくそれなのです。

これは高次と繋がっていると言う事を現在感じているだけなのですが、物事がスムーズに進行している時等には特に感じられるのです。このために新たなものを開発したり、作曲や工芸、ものづくりなどの場面で高次と繋がっている事を感じた時に、共時性を体験させられる人も多いのです。

同じ時期に同じ様なものを開発して特許の申請をしたら、同一内容で数件の届け出が発生すると言う事もあるのです。日常生活においても全く同じものを除いても類似性のあるものを確認すると二、三件どころかもっと沢山確認する事も出来るのです。

ここに今、共時性のメカニズムを言葉により解くと次の様な事が言えるのです。

全く同じタイミングで高速で回転する丸い円盤がA B Cと複数あるとします。円盤の表面は均等に十字に四分割されていると仮定します。分割された場所はそれぞれ赤、青、白、黒などの色分けがしてあり、同じタイミングで回っているためにAの円盤の上部に赤が来た場合は同時に回っているBもCも上部に赤が来ているはずなのです。実際には物質と次元と空間との間が複雑に緻密に繋がりがあありますが、これがすなわち高次の部分なのです。あくまでも現次元は円盤の表面に過ぎないのです。

本来であればこの様なタイミングで回転しているのですが、実社会ではなかなかそうは行かないのです。AとBは同期、すなわち共時(シンクロ)が取れているのにCがシンクロされていないと言う場合もあるのです。もちろんA B C D E・・・と複雑に関係しているのですが、時には現次元で全ての円盤がずれていてシンクロされていない場合も多いのです。また、永遠にシンクロされない場合も発生する様なのです。

我々が今わかる共時性とは偶然にも同じ様な事が、同時期に発生したとしか見えていないのです。この時こそがまさに高次を意識する必要があるのです。複数もの共時性を感じ取る事が出来たら肉体は自分の守護霊や魂のレベルでマッチングの取れた状態なのです。

この様な時こそ、良い作品や良い曲がポンと思いい浮かべられ、労せずしてアイデア等が生まれて来るものなのです。

六彼岸に先祖の嘆きが聞こえる

毎年、盆や彼岸になるとあらためて先祖を敬うと言う気分を味わう事になります。

私の両親は先祖に関してとても信心深く盆、彼岸の先祖供養は欠かせた事がありません。

そんな家庭に育った私も先祖からの力を得てご利益の降り注ぐ日々を今日まで毎日過ごしているのです。しかし盆や彼岸での当たり前の生活の中で時には先祖が物申す事もあるのです。

ある年盆が近付いた頃の出来事だったのです。そんなある日、先祖が困った様子で私の夢枕に立ったのです。夢によるとある先祖がお茶が飲みたい欲しいと言っています。

その夢は一週間ほど同じ様に見えていたのです。長く続けて見る夢というのはいわゆる霊夢なのです。しかし現実では今年85歳になる私の母親が毎日毎日仏壇に手を合わせ先祖に一番茶を上げているのです。あの様にお茶を毎日上げているのになぜこの様な夢が見えたのだろうか不思議に思い、それなら先祖に聞くのが一番良い方法だと思いきつそく私は先祖の方々に聞いてみました。

私は仏壇の前にゆつくりと座り心を落ち着かせ合掌をしながら思い当たる先祖の方々に聞いてみました。最初はおばあちゃんに聞いてみる事にして、合掌しながらおばあちゃんを思い浮かべ聞いたのです。「おばあちゃん、お茶は毎日頂いていますか」と聞くとおばあちゃんは「いいえ」と言うのです。不思議に思い次はおじいちゃんに聞いてみたのです。「おじいちゃん、お茶は毎日頂いていますか」と聞くとおじいちゃんは「はい」と答えてくれました。

念のために一番最近亡くなった親父に聞いてみたのです。「親父お茶は毎日頂いていますか」と聞いたら親父も頂いていないと言う返事だったのです。これはどういう事なのかとさつそく母親の元へ行き聞いてみたのです。「毎日仏壇に上げているお茶はいつたい何と言つて上げているの」と聞いたら母親は「はい、おじいさんお茶ですよ」と言つておじいちゃんだけを名指しで、上げているとの事だったのです。さすがの先祖もおじいちゃんだけは喜んでお茶を頂いているかも知れないけど、他の先祖の方々はどうかやら頂いていない様子なのです。これでは大変だと思ひさつそくお茶を上げる時に今後は「先祖の方々へ」とか「先祖の皆さんへ」とか言う様に改め注意をしたのです。すると言うまでもなく先祖はお茶が欲しいと夢に出てくる事がなくなつたのです。先祖の世界でもままならぬ事があるのかもしれない。

同じ様に先祖にお供物を上げたりする時にも注意が必要だという事がわかります。先祖様によつてはタバコの好きな人もいた事でしょう。逆にタバコが嫌いだった人もいた事だと思ひます。当然の様に先祖が愛してやまなかつたものに関しては、その先祖を名指ししてあげて供えてあげるべきなのです。そうすればタバコの嫌いだった先祖が煙で煙たくなる様な事も無く、上げたい先祖だけに喜んで頂けるといふ訳なのです。

まさにこの世と同じなのだなあと思感させられた。沢山の先祖に感謝したいものです。

七人が死んでしまった

人が死んだとは言っても殺人事件ではありませんが。

あれは私がサラリーマンになって間もない頃、直属の上司(課長)がいつもと違い、おかし

な行動をとっていた時の事でした。下請けの会社が沢山出入りする事務所内ではお歳暮の季節。私の上司がS相手会社の人と事務所の隅でコソコソしていたのです。まあここまではよくある光景なのですが、同じ様な光景がその後も続き、私を知る限りではS、T、K、M、Y、G社と数える程になったのです。

そんなある日、その上司はM相手会社の伝票に、承認されない状態であるのを知りながら、伝票を管理している私に承認印を求めて来たのです。私は何度もその上司に「承認印を押すわけには行きません」と言ったのですが、上司は「私がOKしているのだから印を押してくれ」と言い続けたのです。とはいっても何か問題が発生した時には、印鑑を使っている私に殆どの責任が発生する訳なのです。もちろん私の性格からして最後まで承認印を押す事はなかったのです。

そんな折、その上司が自分の机の中から、私にあるものを取って欲しいというので、引き出しを開けたところ、なんと業者からの頂き物が沢山出てきたのです。

良く見るとS社もT社もK社も・・・まだまだ沢山ありました。

私も色々と考えたのですが、さすがに上司もこれでは伝票にメクラ印を押さない訳には行くまいと思ったのです。

私はその上の上司(部長)がいる機会を見計らい、課長の机の中の物をぶちまけてやったのです。その上司はあわてて事務員さんを手伝わせ飛び散った私物を拾い集めていたのです。その中には不正に処理しようとした伝票、家族旅行券や招待券、なんと現金一万円札が何枚も宙に舞ったのが記憶にあります。残念な事にその時、女性のヌード写真も何枚か飛び出してきたのです。

その後上司は会社のトップからも酷く叱られ、会社に居ずらくなつたのは言うまでもありませんでした。

上司はその数日後私のところへ嫌みを言いに来たのです。しかし私は仕事もせず不正な事をし続ける彼を、許す訳には行かなかつたのです。嫌みを言われたら余計に腹も立つて来たのです。

その後来る日も、来る日も、その上司の事を私は憎んだのです。あんな人間はこの世にいない方がいいのだと、世の中のために良くないと毎日毎日思っていたのです。

するとある日突然、上司だった人は死んでしまったのです。ところがこれだけでは終わらなかつたのです。

その後も内容は違うものの、私が嫌だなあと思う人は次々と3人も死んでしまったのです。

あれ以来私は心に強く思つたのです。どんなつまらない事があつても人を憎むのだけは止めようと。今考えてみるとあれはきつと神様からの戒めだつたのだと思います。

第三章 神通力伝授

一 神通力習得の伝授

最近私の元へ神通力を得たい、靈能者になりたいと言ひ、尋ねて来られる人がいます。靈能者になりたいと思つて、いくら修行に修行を積んでも未だに何の力も授からないという人も多々います。そもそも私の理論としては修行を行う事により、神通力を得たい、靈能者になりたいという考えも不自然に感じてはいますが、(身を清める意味での修行は別として)世の中の傾向が、時として修行をする事により何かを得られるのではないかと考えられている様な気がします。修行そのものとはもと生活の中から充分取り入れる事が出来るものと解釈していますが、いかがなものでしょう。

一方特に靈能者を望んでいる訳でもないのに神通力が授かり、靈能者への道を歩んでいかなければならぬ人もいる様です。前者の様に自ら希望して神通力を得たいというタイプの人には無理があり、神から選ばれた人間ではなく、修行によつて神通力を得たということで実践よりも理論の方がはるかに先行している人が多いのです。どちらのタイプにせよ靈能者になればそれなりに大変な苦悩を強いられるのは覚悟しなくてはなりません。

無言の行

五年前インターネットを通じ私の元へ一人の男性が連絡をして来ました。福岡県に住んでおられる山田さんという方で神通力を習得のために密教や禅について勉強をされ、念願の神通力を取得したと言う事です。

彼は年を置いて来て今までの人生に対して何の悔いもないと言うのです。最初は大変ながらも努力を積み重ね。会社をいくつも設立し、成功され、お金に不自由する事なく色々な富に恵まれたと言います。私のホームページを眺めているうちにぜひお願いしたいと言う事で、「神通力習得実践」を私を通して世間に伝授したいと言うのです。そしてこの神通力習得実践を世間にPRし後世に伝えて欲しいとの事で、頼まれたのです。すぐには返事をする事ができなく、「次回の著書の発行時にでも掲載させて頂きます」という事で、お話をさせて頂きました。そもそも私は宗教が好きではないために、それが何らかの宗教的なものにかかわりがあるのならば、正直のところお断りしようとしていました。しかし特別宗教的なものに片寄っている訳もなく、個人が素直に研究されていたのに心を打たれ、その「無言の行」なる方法を世間に広める事に了承をしたのです。もちろん本人の許可を得て公表しますので興味のある人は自分自身の責任において神通力の習得を実践してみてください。

原文をそのまま引用しますのでよろしくお願い致します。

無言の行の修法

「無言の行の修法」といっても、特別なことは何一つありませんので心配ありません。皆さんは唯々ひたすら七日〜十日間、今から説明する部屋の中でベットに寝転がって、リラックスし寝るもよし、起きているのもよし、ただ、ただ、くつろいでいれば良いのです。

それでは用意するものから説明します。

一、六畳ぐらいの静かな環境の部屋を用意します。どうしても無理なら四畳位でも良いのですが、出来れば広い部屋のほうが良いと思います。また、出来れば部屋の中にトイレと洗面設備の付いた部屋が良いのですが、無理なら洗面所やトイレにいちばん近い部屋を用意します。またトイレ等に近いクローゼットや物置でも良い。これはトイレや洗面の時になるべく家族や人に対面しない様にするためですので、その工夫して下さい。

また小さな別荘など十日位借りても出来ます。修行者と直接、顔を合わさないように部屋に食事の差し入れや食器の回収が出来る様に工夫して下さい。

二、部屋が用意できたら、いよいよ実践のための注意及び約束事をしましょう。

(一)、部屋が用意できたら、その部屋にはベット、食台、下着、洗面用具、タオル、食食用具、体重計の他は全て外に出して下さい。

(注二)本や雑誌、新聞、テレビ、ラジオ、コンピューター、碁盤、将棋、花札やトランプなど気をまぎら

したり、娯楽につながるものは一切部屋から出して下さい。

(注二) 食事を運ぶ人は音を立てないように静かに忍び足で食事を朝食、昼食、夕食と時間を決めて運んで下さい。またコーヒーやお茶、酒、ジュース類など嗜好品につながるものは一切献立に出さないで下さい。さらに毎日の食事の献立と修行者の食事の残り具合など、克明に記録して下さい。そして七日〜十日間の決められた日が来たら修行の終了を修行者に通知して下さい。

(B)、部屋は薄暗くして照明は裸電球の二十W以下の位の明るさとします。そしてカーテンや雨戸は全部閉めて下さい。部屋全体を薄暗くするのは、照明は前にも言いましたが二十W位です。

三、洗面用具や歯みがき用品、下着や交換用の室内着、体重測定器など忘れ物はごさいませんか。食事はきちんと三食部屋に運んでもらう手配は付きましたか。雑誌、新聞、テレビ、ラジオ、コンピューター、花札、トランプ、将棋、碁など気をまぎらわすものや娯楽につながるものは一切部屋から出しましたか。それらのものは一切持ち込み禁止です。

〔無言の行を修する人への注意〕

一、無言の行は心と肉体を仮りに切り離すことなのです。具体的には、肉体の情報の入り口(目耳口舌鼻触)を遮断し情報をシャットアウトにする事なのです。

従つて娯楽や情報などの雑誌、新聞、テレビ、ラジオなどは絶対に見ないで下さい。

二、身体はベットでリラックスさせて寝転がって下さい。トイレ、食事、洗面の必要な時意外は、ベッ

トからなるべく起き上がったたり、離れたりしないで下さい。もちろん軽い運動や体操も厳禁です。また、日記や文章を書くことも禁止です。ただ、寝たり起きたりしていて下さい。

七日〜十日間の修行中は、風呂に入らないで下さい。シャワーや湯浴みもダメです。給湯設備のある場合はお湯で身体を拭く位にします。

三、一切の言葉を断ち、行が終わるまでは絶対に一言も喋ったり言葉や声を発してはいけません。口に声や言葉を出すことは禁止です。独り言や念仏やお題目を無言で唱えることもやめましょう。

また、口はタバコ、コーヒー、お菓子の類やガムなど嗜好品等も禁止です。

ただし、食事のメニューに入っているものはこの限りでなく、食べても差し支えありません。またジュースや濃いお茶はやめましょう。お湯か、湯冷ましにして下さい。

四、思う事、空想、妄想、悩み事などまた異性の事や旅行の事、食事の事など何を考えても、思いや想いなどはいくら思っても考えてもかまいません。

五、食事は全食、半食、絶食、どのコースを選んでもかまいませんし期間も七日、十日、十五日、二十日のどのコースを選んでもかまいません。普通は全食で期間は十日以内が適当かと思えます。必要に応じて食事、期間を自由に組み合わせ設定して下さい。

六、修行者は行に入る前に医院や病院に行つて健康診断を必ず受けて下さい。そして病気の有無を調べて、もし疾病があれば行を中断して下さい。また行に入る前に、体重を量ってください。そして自分の体重

を覚えていて下さい。それから時々体重を量って下さい。八kgの体重の減少が認められたら行を中止して下さい。十一kgも減少をしますと生命が危険です。直ぐやめましょう。

行の途中に煩惱や悩み欲など放出した量だけ体重が減少するのですが度を超すと体調をこわします。

七、また途中で、言葉を発し言葉を口にすると、解説の一步手前などの場合、まれにですが「精神に異常を来したり、精神分裂を引き起こします」ので注意して下さい。また女性は、妊娠や生理中は絶対に避けて下さい。

八、修法の終了した後、まれに人によっては反作用として、非常に強い死への恐怖感が出てきます。が生死を断った反作用としての強い生への欲望の裏返しですから心配は要りません。この現象はすでに、「神通力」を受持し発現する証相なのですから、むしろ喜ぶべき事です。色々なつらい姿形で、この証相が現れますが、つらくとも常に、身の回りの片付けや、手や身体を動かし自然と接しながら規則正しい生活を送り、乍ら感謝の念を大事にし先祖に感謝し墓参りや仏壇の掃除などをして過ごして下さい。約一ヶ月位でこの色々な反作用は消滅します。それと同時に不思議な神通力が発現して来ます。

修行中に起こる各現象

第一日目

不安と期待が入り混じり交錯するが、二時間ぐらいで気持ちが休まり、非常に良く眠る。食事も美味しく食べて楽しみである。

第二日目

よく眠るが暗室のため昼夜がわからず、小刻さみに寝るため、生体時計も狂い時間感覚が少しづつマヒして来て少し不安になる。体を動かさないため、眠る、起きるが小刻さみとなり熟睡が出来ず不満感がある。

第三日目

眠れなくなり、ウトウトすると目が覚める、不安や心配事、欲望が少しづつ、次々とあぶくのように、頭に浮かんで消えていく。心配事や不安に対して、ああしようとか、こう対処しようと、考えは浮かぶが、体が動かせない約束の上に、言葉でそれを他人に伝えたり訴えられないもどかしさに、イライラがつのり腹立たしさと、もどかしさ、イライラ感で疲れてはウトウトし、目が覚めるとまた同じ事を繰り返す。

時間が経たず、イライラの中で唯々すぎゆかない時間が止まったように感じられる。一時間や一分の経過が一日にも十日にも感じられその間にも一秒も休みなく、繰り返しされる煩悩の欲望や不安、心配事の連続に、時間の止まった世界に入り込み不安とイライラが頂点に達す、わけもなくカベなどをたたいたりする。

第四日目

次から次へと生死を繰り返す。欲望、不安、恐怖、心配事に脳が疲れきって対応できなくなると、ウトウトしては、すぐまた、現実の心配事や不安や欲望など煩惱に引き戻され目が覚めて、しばらく煩惱の生死を繰り返しましたウトウトする。これが時間の止まったような死にも似た世界で果てしなく、繰り返されるのです。ウツラウツラする時間が長くなり、しだいに気配にもものすごく敏感となる。昔の武士のように寝ていても、人の殺気のせまる気配に目が覚めるようになっていく。この間も一秒も休みなく、繰り返される煩惱の生死に「自分はもうダメだ、いくらもがいても、この時間の止まった様な苦しみの世界から抜け出せない。」と、かなしい、あきらめのような感情が広がり、自分が死んだのか生きているのかの識別を始めとして、だんだんに、あらゆる識別が付かなくなるのです。最後まで強力に残っていた酒地肉林の妄想の中での食べる事と、異性とのセックスの欲望や妄想が少しうすらいでくると、気配以外、何にも感じなくなっていく。あれ程に苦しかった煩惱欲も出つくしたのか感じなくなる。

第五日目

この頃から、気配に遊ぶことが多くなりよく遊ぶ。たとえば、室内に入ってくるわずかな、微風に土や草や花の香りのような気配を感じ取るとその土や草や花の所に行き、それらと同化し花の気持ちになつてみたり草の気持ちになつたりして遊んでいる。

この頃には天井から自分自身の寝姿や座り姿を良く眺めている現象が見られる。

そして全く何にも感じなくなり、死んでいるのか生きているのかの生死の識別や区別が全く感じられなく、逆に音や風や空気の運ぶ気配に超敏感になり不思議なことが起こってくる。たとえば、コンクリートのカベの冷気を感じると自分がカベ全体に融合しカベになっていた(カベの中の様子が全てわかる)、音や風になつて、その発生源に飛行したり、と自在に他のエネルギーと同化し気配に遊んでいる。

第六日目

自己が完全になくなり、部屋全体と同化し真ん中に大きな渦巻きのような、目玉がありそこに部屋全体の気配が集まり常を感じている。手足または、クモの巣のような感じで、他のエネルギー体を気配で感じ、瞬時に同化するようになる。この頃から遠出もする。北海道や東京、沖縄とか外国の方にまで異動して遊ぶ。色々な出来事や、色々な人に合ったり現場に行き状況を見たりして遊ぶ。

第七日目

この頃に少しながら、時間エネルギーを気配から感じ、時間エネルギーと同化し、過去、未来と色々な世界を見るが流され通り過ぎるように目に入る。エネルギーを感じると、その中にとけ込み同化して行き、良く飛行し心の求むままあちらこちらを飛び回っている。修行の終わり日である。人が近づきノックし修行が終了したことを告げられ、現実の世界に引き戻されるが、しばらく半日位は、ボーツとして動けず、体を動かしてもうまく歯車がかみ合わない感じがする。ギクシヤクするのである。特に指先の小さな仕事などは出来ない位である。静かに休憩を取るべきです。

以上が「無言の行」という禪修業の平均的な日程と修法ですが、人によっては多少の違いがあります。

それは、心にしみついた垢、煩惱の強弱や、悩み苦しみの多い少ないにもよるし、肉体と心が結びつき時の強弱にもよるからですが、この行を修した者は時間と場所は異なっても必ず、神通力が発現すると、多くの神仏が確約されています。また人によっては神秘体験にかわり病相を感じたり、動物霊などを感じ自分が責め殺されるような苦しみを体験する人もいますが、それらは証相で必ず神通力が発すると神仏が約束されています。

無言の行の修行後の様子と過ごし方。

第一日目(八日目)

無言の行が終わり第一日目です。しばらくの間は静かに身の回りのことを手の届く範囲で片付けや整理などをし身体を動かします。

手、足、腰などにうまく力が入らず、また身の一部が痛んだり、シンシブルブルと、震えてきて止まらない感じがしたりする場合があります。これらは心と肉体の融合が一時的にうまくいかない現象で、しつくり来ずにギクシヤクするのですが、後で詳しく説明しますが、何にも心配はいりません。自動車のエンジンを車体から取り外し、バラバラに分解して、汚れを落とし、ピストンやピストンリングを取り替えてから再び車体に取り付けたと考えてください。当然に少しずつ慣らし運転が必要です。いきなりパワーを全開にして

もギクシヤクするだけです。あれと同じ事です。まれに身体が異常に疲れたりする事がありますが、かまわず規則正しい生活をし、つとめて身体を動かして下さい。手を使って折り紙をしたり、身の回りのことを少しずつして身体を動かすのです。

業の欲、煩惱の欲による心の垢を落としての新しい生活に脳がフルに働きませんので非常な疲労感や、またそのために二〜三時間毎に眠くなる場合がありますが、素直に寝して下さい。身体の痛みやギクシヤクは半日〜一日位で取れますので心配はありません。

第二日〜三日目(第九日〜十日目)

少しずつ起き上がり、家の中や外の掃除やご先祖様のお世話をしましょう。

そのとき、新しい気持ちで、よく目に入るものを観察しましょう。自然に感謝の念が起きて来て、わけもなく涙が出たりする事がありますが、素直に感謝の念を行為に表すようにして下さい。手を合わせたり、頭を下げたり、この頃人によつては最後のより戻し現象が起こる事があります。

身体の奥深いところで異常に、シンシンブルブルと震え、身体がバラバラに分解するような感覚におそわれ震えが止まらない感覚。

これは心のエネルギーと肉体のエネルギーの新しい結合融和のせいですので心配はいりません。むしろこの震えの感覚をよく覚えていて下さい。後で詳しく説明するがこの震え・振動感の拡大されたものが空中浮遊の原動力なのです。

(今回は神通力習得と言うことなので、空中浮遊に関しては次の機会にという事で私の方で割愛させて頂きま
す。)

無言の行とは何を意味するのか。

ここで皆さんが体験された、あるいは今から体験される「無言の行」を違う角度から説明しておきます。今
まで皆さんが子供の頃から蓄積して来た学問的知識や常識や性格的な好き嫌いなど感情的なものなどを自分
の手で、グチャグチャにし、バラバラにして生命をむき出しにしたのです。卵のカラを割って黄味をむき出
しにする様に、本来の私達の命をむき出しにして、周りにまとり付く白味のような、欲望や知識や常識な
どを自分の手で取り除いたのです。そうする事によって、精神エネルギーは、生命を護ろうとして、再びカ
ラを作ろうとしてもすごいパワーで肉体に命令を下すが、肉体は外界からの何の情報も入らず、肉体の工
場で心の命ずるカラを作ろうとするが、心(精神エネルギー)の命令に、付いて行けずに同化一体に亀裂が生
じるのです。精神エネルギーは脳に命令を出しつくしますが肉体工場の情報や活動がストップしているので、
やがて精神エネルギーも止まり、生命は直接、肉体に命令を出したり、自分で情報を集め肉体に送ろうとし
ます。ところが肉体を通して集められる情報は、心で整理された生命と肉体工場に伝えられるが、生命から
直接気配という形での情報は肉体は直接には受け入れず、再び生命↓心へ心↓肉体へと情報伝達が逆になる
のです。つまり生命エネルギーが気配として集めた情報を心に送り、心はそれを分析し(肉体)に送って映像
化するのです。そこに私たちが見たこともない、神秘的な映像が映し出されるのです。うまく例えられない

がだいたいこのような事だと思えます。

第四日目以後

無言の行を終えて四日から五日経つと、体のギクシヤクも取れてきます。この頃から瞑想を始めます。朝は目が覚めて三十分位。夜も寝る前三十分位瞑想をします。昼間は昼食後の昼休みなどで十分位が良い。

朝と夜の瞑想はフトンの中であお向けに寝て、軽く目を瞑り大きく二度三度深呼吸をしてから静かに長く息を吸い込み、長く静かに吐き出します。手は合唱しても良く、右手を左の心臓近くに軽く乗せ、左手をへその近くに軽く置きます。そして自分の信じる神仏を三度呼び出して自分の望みを具体的に言います。「神仏にお引き合わせ下さい」と具体的にです。そうお願いをしておいて、へそに当てた手の先でピンポン玉をイメージするのはです。玉がぐるぐる回っているとイメージするのは。へそ、そのものをイメージしても良い。やがてムラサキ色の渦巻きが表れて、さらにコバルトブルーの渦巻きとなり、それがはじけるように渦巻きを中心から黄金色の光となり、神仏の世界へ入って行くのです。

この様に自分の欲求を具体的に、心に強く念じて同じ瞑想をします。これは氣配の世界に遊ぶための、情報逆伝達のための訓練です。

私達は神秘体験を得て神通力を使用する資格を取得しました。そして次の段階は練習と実践です。次の段階ではそうぞう座禅による「瞑想」に入って行くのです。

皆さんがお持ちの運転免許でも、取得しても実際に車の運転という実践をしなければ、恐くて公道に出られ

ません。あれと同じです。皆さんは禅による瞑想の段階に入ったのです。瞑想では煩惱を出しつくす代わりに自分の正統な欲求を強く念じる様にしましょう。念が強ければ強いほど煩惱が相殺されて、やきつくす事と同じ結果になるのです。

以上が、神通力習得実践「無言の行の修法」です。

二神通力習得の伝授

自然の行

ここからは私自身が初心者に伝授している内容ですので参考にされて下さい。

人間は多かれ少なかれ神通力なる霊能力を持ち合わせています。少年期まで持っていたこの能力も思春期と共に消えてなくなるのが普通なのです。しかし、時としてこの能力が後に残る人もいます。この件に関しては別の項でお話しますが、特にこの能力が後まで残る人のタイプの中には、しっかりとした守護霊を持ち合わせていて「自然の行」を行う事により、簡単に神通力を取得する事も可能となるのです。

前記の無言の行の場合はしっかりとした信念の下に行わないと副作用をもたらす事も考えられますが、この自然の行の場合はほんの初級程度の内容ですので誰でも簡単にチャレンジする事も出来ますし、健康法の一つとして行う事により、身体の活性化にも効力を発揮してくれるものと思います。同一内容でホームページ上でも見る事が出来ます。

呼吸法

呼吸法には、ルールや流派はありません。いつでも、どこでも時間にとらわれる事なく自由に行う事が出来ます。

これはあくまでも私の理論ですが、呼吸法の基本時間は、最終目標の息を吸う時に三十秒、その息を吐く時に一分間かけて吐くという最終の目標設定で行うというものです。

しかしこれはかなりきついので、初心者は吸う時に十〜十五秒、吐く時に二十〜三十秒という設定をし、そこから練習すると良いと思います。決して無理をせず、疲れてきたらすぐに止めてかまいません。慣れてきたらだんだんと時間をかけていきます。

方法は、鼻からゆっくりと十〜十五秒かけて空気を吸っていきます。いっぱい吸ったところで一〜二秒程度息を止めます。続いて口から息を吐き出します。この時は鼻から息を吸った時間よりもっとゆっくりと二十〜三十秒かけて吐き出します。この息を吐き出す時に、吐く息に意識を集中させます。この時に気が高まります。

鼻から吸って口から吐くのが理想的ですが、最初のうちはなかなか難しいので慣れてくるまでは、鼻から吸って鼻から吐いてもかまいません。目安としては十センチ先の、ロウソクの炎が揺れない程度で行うと良いと思います。

回数は、最初は一日数回行い、一度に五〜十分程度が良いと思います。場所はどこでもかまいません。家、公園、待合室、駅、電車、バス、飛行機、トイレなど姿勢も自由です。

立っていても、イスに座つても、寝そべっていても、目を瞑つても、友達と会話が途絶えた時など、あらゆる場面で行う事が出来ます。

この呼吸法はあらゆる分野での基本となりますので、簡単ではありますが、奥が深く健康維持などに大きな役割を持つものなのです。

気功法

気功は流派にこだわる必要がなく全て自己流で良いのです。

元の気を元氣、病を患うと病氣、氣持ちが良い、氣が抜ける、氣になる、氣がかり等 氣を使うことばのほとんどが、氣功の氣から来ている様です。

氣には、匂い、音、重さ、味などがあります。氣が見てみたい人は訓練が必要です。コップにお湯を入れると湯氣が出てるのが見えます。次に半分捨てて半分水を足します。

すると僅かに、湯氣が出ているのが判ります。次にコップのお湯を捨てて全て水と入れ替えます。この時に湯氣が出ているか見る訓練をします。

正座やあぐら、イスに座つても寝ていても風呂に入つても出来ず

立つて行う場合を説明致します。まず精神統一をし、呼吸を整え腹の前で両手を広げて二十センチくらいの距離で手の平を向かい合わせます。足は肩幅に広げ、天地人を意識し

頭の上(百会)から氣が入つて来て、両足から大地へ流れていく意識を持ちます。

呼吸法を使いながら息を吐く時に両手を少し近づけ、息を吸う時に両手を遠ざけてみると、両手のひらの真ん中(劳宮)にツボがあるのですが、その部分が最初はむずがゆく感じられてきます。近づける時に磁石の様で両手が反発し、遠ざけると磁石が吸い寄せられるかの如く引つ張られるのです。これが最初に氣を感じるどころです。

判り難い場合は両手の平を五センチ位に近付けてやってみると良くわかります。その日の健康状態などによつても左右されますが、誰にでも出来る事です。やつてみて下さい。

瞑想法

ここでは一般的な瞑想に關してお話いたします。

瞑想に適した場所は、あまり光の入らない薄暗い静かな場所を選びます。激しい運動の後や、気分の乗らない時は避け、湿気が少なく寒くなく暑くない適度の温度の下で行い、可能であればコップ一杯程度の水を飲んでから行うと良い。正座もしくは仰向けの状態で、軽く目を閉じ二〜三度深い深呼吸をしてから行います。姿勢は背筋を伸ばし、手の位置は座禅時の様にへその下(下丹田)チヤクラの位置なら第二又は第三チヤクラの前で、右手の掌の上に左手の掌を乗せて軽く両手の親指が付く程度にします。

仰向けで行う場合は、へその上で手を重ねるか両手を組んで行う。合唱したり、ロウソクを立てて行う方は別の項でお話いたします。満腹時は避け空腹時に行い、一回の瞑想の時間は十〜十五分程度で、一日二〜三度を目安として下さい。出来れば呼吸法とあわせる事により、スムーズに行う事が出来て効果も期待できます。

導入時は何も考えずに行います。しかし初心者では何も考えずと言ってもつまらぬ考えが浮んでしまうものです。その様な時には次の様な事を頭に浮かべながら行います。

「暖かな春の日、誰もいない山の中の湖の真ん中で、一人で小船に乗っています」

「波もなく穏やかな日なので、うつらうつらと眠ってしまいそうです」もし、

この時点で眠くなってしまうたら寝てしまってもかまいません。後日挑戦して下さい。

瞑想に入ると間もなく顔の前方(印堂の上方)に、紫の光の玉が幾つも動いて行くのが見えてきます。しばらく見ていると薄くなつて来て、一瞬景色や先祖の姿などが見えてくる事があります。気の早い人はこの時点で霊能が開花したなどと勘違いする人もいますので気をつけて下さい。

また、正座での瞑想の場合、体が左右、前後に揺れたりする事もありますが特に気にする必要はありません。背中がムズムズしたり、頭の天辺(百会)や印堂、肛門、女性の場合、膣などに違和感を感じる人もいますが、瞑想時に良くある事なので、これも特に問題ありません。途中で気分が悪くなったり多くの汗をかいたりする場合は、すぐに瞑想を止めて下さい。

前記しましたが途中で眠くなってしまう場合は、そのまま寝てしまってもかまいません。慣れてきたらお風呂に入っているながら水面でやってみると、お湯が動くのが判ってきます。もつと進めていくと気の匂いや重さ、味までわかってくる様になります。

とりあえずは両手の平に感じる事です。

凝視法

ここで言う凝視法とは、おもにオーラを見やすくするための訓練法を言います。

オーラを見る際にいったん目をそらしてしまうと、次にすぐに見ようとしても慣れていないと見えにくくなってしまう、なかなか難しい部分があります。

そこで一点をじっと見つめてオーラを読み取るために、どうしても凝視が必要になるのです。私が今まで研究して来て、もともわかりやすい方法は鏡を利用する事です。

適度な大きさの鏡がなかったために神棚の神鏡を使ってみました。今なら水晶の玉を利用する方法も良いかと思えます。オーラ凝視(下記に説明)に關しての基本は他にも色紙を利用する事で、短期に習得できる方法もあります。特別なものを使わなければならないという事はないので身近なものを利用して行う事が出来ます。目の高さで、五十センチ程度の距離に神鏡を置き正座をします。二〜三度深呼吸をし、気持ちを整え神鏡に目をやります。

この時自分の顔が神鏡に映っている事を確認し、瞬きをせずにじっと神鏡を見つめるのです。途中目が痛くなったり、最初は涙が出てくる事もあります。

普通は五〜十分を目安にして長く行っても一回、十五分程度が限度かと思えます。

上級になったら気功法と合わせて行う事により、より効果が期待できます。凝視法をうまく進めるためにグレープフルーツやブロッコリー、キウイフルーツ等を食べてから行うと良い効果が出ます。現在のところ

るなぜこの様な果物を食べて凝視法にプラスになるのか分かりません。ただ色々食べた経験上から言えるのですが、共通していえることはビタミンCだと思い、ビタミンCを直接摂取して凝視法に挑戦してみましたが、さほど効果は見られませんでした。やはり本物の果物が、体に何らかの影響を与えてよい結果を出しているものと思います。

色紙を使ったオーラ凝視法の練習を説明します。白い大きな紙の上に色紙を数枚置き、そのうちの一枚をずつと眺めていて、瞬時にその色紙を移動させた場合、元色紙のあった場所に残像として色紙の大きさで蛍光色が残るのが判ります。時間とともに薄くなり消えてなくなるのですが、これは直視して視覚から得た色の補色(反対色)が脳裏に、残像として青なら蛍光色の赤、黄色なら紫、緑色ならピンクに残って現れるものと思います。色紙を変えて確かめて下さい。視覚のプロではないので詳細はわかりませんが、誰にでも見る事が出来るのです。凝視法に、この色によるオーラ凝視の練習もやってみると良いと思います。

二予知の訓練方法

年末や年始のテレビ番組でよく占い師を迎えて来年はどの様な年になるかとか、今年はどうな事が起きそうだとか数人の占い師さんが占っているのを見かける事があります。

もちろん占い師により、内容も様々で色々面白いところです。

そんなある年に私にも占う事が出来ないものかとやってみたのです。気持ちを落ち着かせて目を瞑り来年がどの様な年になるかと、自分の守護霊に問いただしたのです。漠然としては正しく占う事も出来ないで、頭の中に日本地図を思い浮かべたのです。そして北の北海道から東北へと日本地図を上から移動して見ていました。日本地図を思い浮かべてはいるものの、なかなかはつきりと見えるものではありません。いくら眺めても能登半島と九州の一部がボーツとして霞んで曇っていて見えないのです。この様な事は今まで試した事は無いので非常に難しくて疲れるのでとうとう諦めてしまったのです。

そんな事もすっかり忘れてしまつてその年の年末を迎えたのです。するとまたテレビで占い師さん達を集めた番組が放送されていました。数人の占い師の方々が、話しているのを聞いていた時でした。ある占い師はその年に起きた能登半島の地震を年初めに予知をしていたとの事でした。また、ある占い師は九州の普賢岳の噴火を見事的に中させていたとの事でした。そういえば能登半島で起きた地震と九州の普賢岳の噴火は、私が年初めに一年を占おうとした時に、地図上で灰色に霞んで曇っていて見えなかった部分だったのです。

この事から予知しようとして地図を思い浮かべた時に、霞んだりして見えない部分に値する場所ではその年

に何らかの異常があるのではないかと予想されて来たわけです。

また、これは良くない事だけにとられそうですが、良い事があるのも予知できるのだと言う事も分かって来たのです。占いたい場所を探す場合は日本地図などももちろんですが、世界の情勢の場合は世界地図を見ると言う事になり、宇宙においては太陽系や銀河系全体を思い浮かべなければなりません。この様に様々な地図を思い浮かべる必要が出てくるわけです。

しかし何らかの異常がある事は分かったものの、どの様なものが何時起こるのかと言う事は全く分かりません。

次に、この場合何が起きる時期を特定する必要があるのです。何百年先や何十年先の年号を見るとか、一年の春夏秋冬の四季を見るとか、一月から十二月までの各月を見たり、日にちや時間まで詳細を見る必要があるのです。もちろん詳細になればなるほど難しくなる事も分かり困難な確立を正確に捉えなければなりません。

以前に関西の占い師で地震の起きる日時まで特定して、荷物をまとめて予知した場所から移動した人がいます。自分に関係した周りの人達を集めてその場所から地震を避けるために移動したのです。しかし実際にその場所で特定した日時には地震が起きなかったという事がありました。

この予知をした人は、他にも数々の事件事故を正確に予知してきたのにも係わらず、その地震が起きると言うのだけを外してしまっただけです。私が思うにはおそらくこの人は月日は予知できたものの、おそらく

年号を見間違ったのではないかと思うのです。

以上の方法を含み、今度は発生するものを特定しなければなりません。

地震や火山の噴火などの自然災害か、あるいは戦争や暴動など人に関係するものなのか、あらゆる面から見なくてはなりません。この方法は守護霊のしっかりとした人なら誰でも挑戦できる予知(占い)の方法なのです。しかし精神集中しなければならぬので、エネルギーの消耗にはかなり厳しいものがあります。ここで靈感体質の人にお勧め方法は地震や火山の噴火など霊感的に予知された場合のみに予知して見る事です。霊夢をよく見る人は霊夢で試してみるのも良いし、得意な方法で行う事が出来ます。

予知をされた結果については自分自身で分かっているれば良い事なので他言は慎んだ方が良いかもしれませぬ。昔から言われる様に火事や泥棒などの場合は自分が発したために他人にまで迷惑をかけたたり混乱を招いたりするどころか、原因や発祥が不明の場合は自分が犯人にされてしまう場合もありうる事なのです。

私のところへ来る相談者で重い病気の相談などで受けている場合、すでに線香の臭いがしてしまったり、香典や黒い礼服まで見えてしまう事もあります。この様な場合に時期を見たり、ましてや相談者に「近々お亡くなりになります」とは絶対に口が裂けても言えないものです。こんな時は「そのうちに良くなりますからお大事にして下さい」と言い、帰ってもらうしかありません。もちろん後日相談者から電話などがかかって来たりして「あなたは外れたね」等と嫌みを言われる事もあります。

私が予知した中では過去において事件事故や、自然災害などが発生した場合はその年だけではなく、内容

は変わっても次の年も災害などが続く場合が割りと多くあるものです。

近年の場合も九州方面や東北方面が曇つて見えないのも、口蹄疫や鳥インフルエンザ、新燃岳などの心配された災害があつての事だと思ひます。西日本においても例年にない降雪量のために見えにくくなつてゐるものだと思います。

特に本年の場合には、東北方面の地震をきっかけに、津波、そして放射能に至るまで日本中に危機感を及ぼす大きな地震災害となり、太平洋側はもちろん日本海側の豪雨や、今後心配される東海、南海地方の地震、そして日本中が転変地変に気をつけなければならないと心配される所です。

この予知(占い)方法もひとつの方法なので、かなりの確立で予知出来る人もいるのではないかと思つたので、コツさえつかめば自分自身のアイテムとして取り入れる事が出来ます。

慣れてくれば地図だけではなく、身体の部位や就職活動、宝探しの事にも使えますので、体力の消耗はありますが何回も試してぜひ良い成果を得て下さい。

第四章 霊障害対策

一・霊障害対策

先日ラジオを聴いていたらある番組の中で金縛りにあつた事をお話されていて、金縛りは悪い霊が来て苦しめていると言う様な内容のものでした。

どうして金縛りを悪いもの、あるいは悪い霊の仕業としてしまうのでしょうか。これでは霊にも失礼になると思います。人間も同じ霊体の一部であり、人間であるという肉体を持っているから一般に目に付かないものは悪いものとして捉えてしまうのでしょうか。

人間には個人個人にちゃんとした守護霊というものが憑いているのです。ここでは悪い良いと言うのは別として、守護霊自身も肉体を持った人間を守護しているかとしていっているのです。

我々人間である以上は様々な考え方を持っています。ある人が良いと判断しても自分にとって見ると良くないものとして捉える事もあるでしょう。また、タバコを吸う人はポイ捨てをしてみましたり、車を運転する人はスピード違反や、信号無視などをしてしまう人もいるかもしれません。交通違反とか、おまわりさんに注意される以前の問題なのです。

これは悪いと知りながらやってしまう場合と、間違つてやってしまったという事もあるでしょう。すなわ

ちこの部分なのです。

いちいち自分自身で心の裁判にかけその都度懺悔をするのもおかしな事だと思っております。

まさにこの様な事が人間の肉体と守護霊との間で行われているのでしよう。レベルの高い守護霊は何とか肉体に気付いてほしいために、時には病氣として、時には生き方として目に見えない信号を送って来ているのです。しかしこれはほんの一握りの人しか送って来ないものです。世の中には病氣や事件事故を全て霊の仕業として、つまり霊障害として捕らえる人や、それを正しく教えてあげるべきはずの間違った霊能者までいるのです。何でも霊の仕業にすればよいと思っている様なのです。

霊は我々の味方になってくれるのはもちろん、世間で言われている様な霊障害は実際にはそんなにはないのです。世の中に「ごまん」というイカサマ霊能者達も分らないのです。

金縛り、それは自分自身の守護霊からの信号なのです。霊体を憑けた人間の肉体が霊のレベルに達していないのです。そのために金縛りと言う形で信号を送って来ているのです。怖いものではないのです。自分自身は肉体を持ち、霊達や守護霊に生かされていると解釈すべきなのです。

大切なのは守護霊がその信号を送って来ている事を理解してあげる事です。悪い霊の仕業でもないし、むしろ肉体に気付いてもらい同じレベルになつて欲しいと言う信号なのです。

守護霊の霊格が高いと言う事に自身を持ち理解する事です。この様にいつも金縛りに会う人達は割りと霊感体質であり、霊媒体質でもある場合が多いものです。

前記した様に巷にごまんといえるイカサマ霊能者達は実際に守護霊との会話から得た能力や体験ではなく、後から勉強をして書物や他人から聞いた事などから得た能力だったりするので、本来の金縛りや霊障害に關しても、全てのものを霊障害にしてしまっていると言う頭でつかちになってしまっている偽者の霊能者の様です。おまけに最近では全てのものを霊障害と判断してお金儲けに走る自称霊能者と言う人達が後を絶ちません。霊障害はイカサマ霊能者に治してもらうものではありません。自分自身で解決出来るものでもありません。

病氣と同じで霊障害にかからぬ為にも予防が必要なのです。まず第一は自身の守護霊とのギャップを発生させない様に日常生活を正しく生きる事です。一般常識が霊障害対策に生きるのです。毎日肉を食べていてもだめです。毎日酒を食らっていてもだめです。

食事においても様々な食材を色々取り入れる事なのです。

また、自身の行動や言動これもお天道様が見ているのだから間違った行動は避けるべきなのです。特に大切なのは靈感、霊媒体質の人にあつては最近流行っている心霊スポットへ肝試しに出かけるとか、睡眠時間を充分にとらないとか、本当に日常生活から霊障害帽子は始まっているのです。困った人を見かけた時にも手を差し伸べる事により、自身の守護霊は喜んでくれるのです。守護霊と肉体とが一体になると金縛りなどは知らず知らずの間になくなっていくものなのです。

どうしても霊障害と言う形で現れてしまった場合はしかるべき人をお願いして除霊や浄霊などといった事

を行って頂くのです。何度も言いますが、この部分でも実際に霊障害ではないにも関わらず、霊障害だと
言うイカサマ霊媒師や霊能者に多額の請求をされて結局解決までに至らなかつたと言う人もいますのでお気
をつけ下さい。

参考ですが、霊障害も胃潰瘍と同じ様に一度かかると次の時もありやすいという事がいえる様です。特
に霊感、霊媒体質の人は憑依体質と一緒に持ち合わせている人が殆どなので充分気を付けるべきです。

おわりに

霊能の世界からしてみても人間には、陽のタイプと陰のタイプがいる様です。

陽のタイプと言うのは人間としても活動的でパワフルな場面が見えているのですが、人間関係などでは時として自分の発した言動で相手に不愉快な思いをさせてしまったり、外から他人を傷つけてしまう事が多い様です。内臓が丈夫のわりには外の怪我などが多く霊的な憑依も少ない様です。この様な人達は念力や気功などのパワーを操る事が出来、人を傷つけてしまう反面、相手に治癒力を施してあげる等のパワフルなタイプの人が多いのです。

一方、陰の人は内気で他人に言われた事などが気にかかり、自分自身で内部から傷つき、壊れていくタイプの人が多く、内臓も弱い人が多いのです。この様な人は霊を感じる事が多く、憑依はあるものの予知や透視に力を発揮する事が出来るのです。このために人の気持ちや痛みも充分わかるので癒し系のパワーを発揮する事が出来るのです。

本来であれば、陰と陽の要素を両方持ち合わせているのが理想的ですが、人間は少なからずどちらかの方に偏っている様なのです。霊能の世界でも陰の人が霊的なものをうまくレシーブして、陽の人がそれをうまく払いのけると言うペアがふさわしいのではないかと思えるのです。

この様な要素を持ち合わせてはいるものの、陰の人も陽の人もどちらも出来る事と言ったら、自分自身の

守護靈に投げかけ念じる事です。困った事等があつた場合、楽しい方へと方向性が向く様に一方通行でかまわないから自身の守護靈に語りかけて癒す事です。言葉を声に出して言う必要はありません。じつと思つてゐる事を念じるのです。肉体を持つた自分とマッチングされた守護靈しか通じ合わない部分もあるのです。そうする事により守護靈に通じるものがあり、色々なものを引き寄せたり、魂も癒され肉体も癒されて浄化されて来るのです。第三者がどの様に操ろうとしても自身の力で自身を癒す事はもつとも大切な事です。

平成二十四年一月 電子書籍 坂下 進一 「守護神 福寿帰命」

プロフィール 坂下進一

幼い頃から靈感が強く、弱い身体に数多い霊的な体験をし、
少年期の霊夢や予知夢の当たる確立は高いものがあつた。
会社勤務の合間に悩める人の相談にも当たっていた頃、
平成六年十一月に宇迦之御魂大神(女神)の降臨現象があり、
現在では正しい霊能者の育成に当たっている。

群馬県太田市

〇二七六・二七・二〇八一

坂下進一 (神霊主、福寿帰命)

HP http://www.page.sannet.ne.jp/s_sakasita/